



CSRレポート2015





参天製薬グループは 「天機に参与する」という基本理念に基づいた 事業活動を通じて、 優れた製品・サービスを提供することにより、 世界の患者さんのQOL向上に貢献し続けます。

「天機に参与する」—「参天」の社名の由来であり、自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献することの意。この基本理念のもと、創業以来いかなる時代にあっても「創造と革新」を繰り返し、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会に貢献する。そこには、参天製薬のCSR（社会的責任）の本質が謳われています。当社は事業活動を通じた社会への貢献をCSRの根幹に据え、全社員がCSRに対する意識を深め、実践することを「経営と一体のCSR」と位置付けています。本レポートでは、この1年の当社ならびに社員の取り組みをご報告いたします。





編集方針

- 本報告書は、参天製薬および国内外のグループ会社のCSRに対する考え方や取り組みについて、多様なステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えするための年次報告書です。
- 参天製薬グループの社会的責任を果たすための取り組みの全体像を簡潔に報告することを重視し、活動の要点を実践報告にまとめました。活動の詳細は、当社ウェブサイト「CSR (社会的責任)」に掲載しています。
<http://www.santen.co.jp/ja/csr/>
- 事業活動に伴う環境関連情報の詳細は、当社ウェブサイト内に「環境データブック」として掲載しています。
http://www.santen.co.jp/ja/csr/document/pdf/environmentdb2015_ja.pdf

〈実践報告〉

- 実践報告は、「ISO26000」の中核主題を参考に、当社独自に定義した7つの「CSR推進中核領域」ごとに扉を設け編集しています。
- 各領域の扉ページでは、中期活動テーマにおける活動項目に準じた、今年度の主な実践活動を一覧の形で簡潔にまとめ、実践活動の全体像がわかるようにしました。
- 本編では、活動のハイライトを記録写真や図表を添えて掲載しています。特に焦点をあてたい報告は、「実践報告FOCUS」としてより詳しい報告を行っています。
- 参天製薬のCSR活動の実際を、さまざまな現場でCSR活動を担う担当者や、かかわりの深いステークホルダーの皆さまにインタビューし、その声を「Voice」として報告しています。

〈2014年度CSR活動総括〉

- CSR活動のさらなる充実をめざして、昨年度より「中期活動指標」の中に設定したKPI (Key Performance Indicator) の運用を開始しました。
- 2014年度のCSR活動は、設定した指標に基づきPDCAのマネジメントサイクルを回し、活動の評価、充実化に努めています。
- 活動内容とKPIに基づく評価および次年度の活動方針をわかりやすく報告するために、4ページにわたって「KPIによる評価と次年度のKPI」を組み込んだCSR活動総括を一覧形式で掲載しました。

対象範囲

国内では、参天製薬の全事業場および国内子会社の株式会社クレールを対象としています。海外においては、サンテン・オイ、サンテン・インク、参天製薬 (中国) 有限公司、韓国参天製薬株式会社、サンテン・エス・イー・エスなど一部子会社を含んでいます。

対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
(一部2015年4月以降も含む)

参考にしたガイドライン

当社CSR体系の構築には国際標準化機構「ISO26000」の考え方を取り入れています。報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン」を参考にしています。

次回発行予定

2016年9月

CONTENTS

TOP MESSAGE 代表取締役社長兼CEO 黒川 明	03
参天製薬グループのCSR	05
実践報告 (CSR推進中核領域)	
I CSRマネジメント	07
Voice1 ステークホルダーダイアログの充実 (視覚障がい者支援団体の方とのダイアログ)	
〈活動ハイライト〉	
II 適正な製品・サービスの提供	14
〈実践報告FOCUS〉 希少疾病用医薬品の開発をめざすグローバル・プロジェクト	
Voice2 新薬の早期開発 (サンテン・インクDE-109開発プロジェクトチーム)	
〈活動ハイライト〉	
III 公正な事業取引	19
〈活動ハイライト〉	

IV 人権尊重	19
〈活動ハイライト〉	
V 労働・安全衛生	21
〈実践報告FOCUS〉 社員参加型の活動による健康で働きやすい職場環境の実現に向けて	
Voice3 社員の衛生確保 (滋賀プロダクトサプライセンター 健康支援室)	
〈活動ハイライト〉	
VI 環境保全	25
〈実践報告FOCUS〉 世界最大級の点眼剤生産工場がめざす環境保全活動	
Voice4 生産拠点の環境保全活動 (能登工場 能登業務チーム)	
〈活動ハイライト〉	
VII 社会貢献	29
〈活動ハイライト〉	
2014年度CSR活動総括 (KPIによる評価と次年度のKPI)	31
第三者意見	35
会社概要	36

世界の患者さんの期待に応えられる企業をめざして

参天製薬は、「天機に参与する」という基本理念のもと、世界の患者さんのQOL (Quality of Life : 生活の質) 向上に貢献することが社会的使命であると考えています。経営と一体となったCSR (社会的責任) 活動を積極的に進め、参天製薬グループの総力を結集して、持続的に成長する「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」をめざします。

眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして着実に前進する

2014年度、参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向け、事業展開と製品創製において着実に前進することができました。

米国メルク社からの眼科製品の譲受により、製品ラインアップの充実とともに、欧州・アジアを中心に新たな国と地域における事業基盤が強化され、プレゼンスが向上しました。

欧州初の成人患者において人工涙液などで効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とする治療薬「アイケルピス」(一般名:シクロスポリン)のドイツでの発売を開始し、順次各国に展開してまいります。また、DE-109 (一般名:シロリムス)は、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として欧州医薬品庁に販売承認を申請し、受理されました。米国・アジアでも国際共同試験を実施しており、世界の患者さんが待ち望んでおられる希少疾病用医薬品の発売をめざしています。さらに、アジア太平洋地域最大の眼科研究機関であるシンガポール眼科研究所と戦略的共同研究を立ち上げました。このような取り組みにより、患者さんの未充足ニーズを的確に捉えた新薬の創出に努めます。

「One Santen, One Team」として参天製薬グループの総力を結集する

長期的な経営ビジョンの実現のためには、「創造と革新」を担う人材の育成と組織の強化が重要だと考えています。

眼科領域に特化したスペシャリティ・カンパニーとして培ってきた強みを活かし、社員一人ひとりが自らの専門性を高め、関連したあらゆる情報・技術に精通し、患者さんのQOL向上につながる製品とサービスの創造と革新に向けて行動していかなければなりません。また、欧州・アジアにおいて新たに40以上の国と地域に事業展開したことにより、人材の多様化が急速に進みました。

世界の患者さんの期待に応え続けるためには、専門性を持った多様な人材が、参天製薬グループの一員として共通の価値観のもと連携・協働することが不可欠です。

そのために、基本理念に基づいた期待する人材像の定義と、それに連動した新人事制度を構築し、グループ全体への展開を進めています。

基本理念の浸透を通じて、「One Santen, One Team」として、参天製薬グループの総力を結集してまいります。

経営と一体となったCSR (社会的責任) に積極的に取り組む

高い倫理観を持って、経営すなわち事業活動とCSR活動を一体として推進することが、企業が社会的責任を果たし、持続的に成長するための前提であると考えています。

「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けた事業のグローバル展開を進める中で、経営の健全性と透明性を確保するため、コーポレートガバナンス機能のさらなる充実と強化を図り、世界的な環境問題や人権侵害の防止、国や地域で異なる法規制に対するコンプライアンスを着実に推進してまいります。

眼科領域における製品とサービスの提供だけでなく、医療分野や福祉分野に対する貢献も私たちの社会的責任です。医療分野では、医学・薬学研究や角膜移植の普及に対する貢献、さらに事業展開している国のみならず発展途上国における眼科医育成や失明予防に取り組む財団やNGOなどに対する助成も行っています。また、福祉分野では、盲導犬育成事業や視覚障がい者支援団体の活動などに対する支援を引き続き行ってまいります。

これからも、基本理念のもと、患者さんと患者さんを愛する人々たちを中心として、社会への寄与を果たしてまいります。

今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年9月



Santen

代表取締役社長兼CEO

黒川 明

〈CSR推進概念〉

参天製薬グループのCSR

参天製薬グループのCSRは、「基本理念」に基づいた「経営と一体のCSR」です。その推進のために「CSR方針」を定め、さらに「参天企業倫理綱領」の「顧客」「社員」「社会」の3つの視点と、「ISO26000」の中核主題を参考に当社独自に定義した7つの「CSR推進中核領域」を設定。領域ごとに目標を立てCSR活動の充実を図っています。



製薬企業としての
社会的責任を果たすために、
グローバルなCSR活動の
充実を図っていきます。

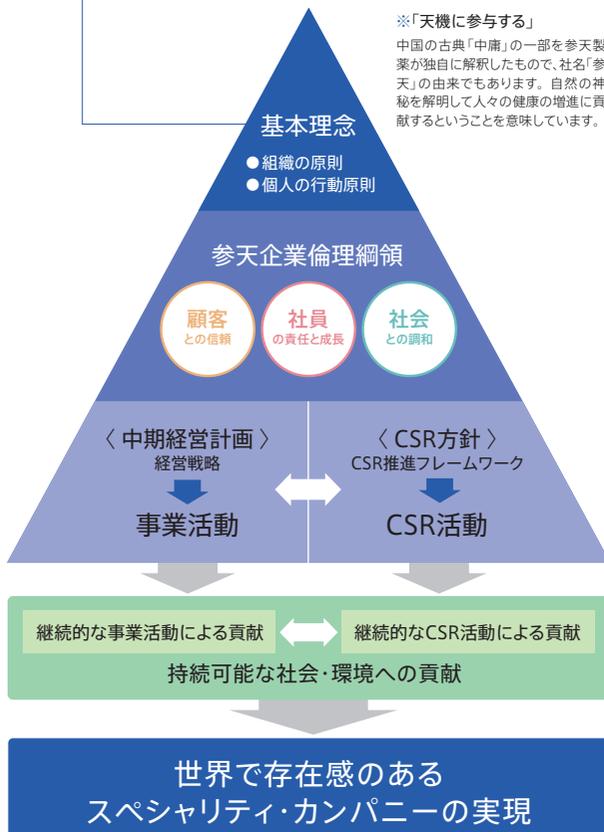
常務執行役員
企画本部担当 兼 CSR・業務本部長
佐藤 正道

〈経営と一体のCSR〉

「天機に参与する」*

肝心な事は何かを深く考え、どうするか明確に決め、迅速に実行する。
「目」をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、社会への寄与を行う。

※「天機に参与する」
中国の古典「中庸」の一部を参天製薬が独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということの意味しています。



1890年の創業以来、125年にわたる歴史において大切にしてきたこと。それは、参天製薬の基本理念「天機に参与する」の中で表現されています。いかなる時代にあっても「創造と革新」を常に追求し、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会に貢献することが当社の使命です。

当社は、事業活動を通じて社会的責任を果たしていくため、基本理念のもとに「組織の原則」と「個人の行動原則」を定めるとともに、具体的な行動の規範として「企業行動宣言」と「行動規範」から成る「参天企業倫理綱領」を制定し、全社員への浸透を図っています。この倫理綱領は、「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」の3つの視点から法令遵守に留まらない高い倫理観と誠実な行動を全社員に求めています。

当社は2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現をめざして、グループが一体となって事業活動を推進しています。基本理念に基づき、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL (Quality of Life : 生活の質) 向上に貢献することをCSR活動の基本方針としています。当社では、このように事業活動とCSR活動を一体的かつ継続的に推進することにより、持続可能な社会ならびに環境への貢献を果たし、その結果として長期的な経営ビジョンが実現すると考えています。

今後は、グローバル化をさらに加速していく中で、基本理念の共有を徹底しながら、コンプライアンスの強化を図ることが重要であると考えており、さまざまな課題を検証・特定し、グループ全体での対応を可能とする体制とシステムづくりを進めていきます。

CSR方針

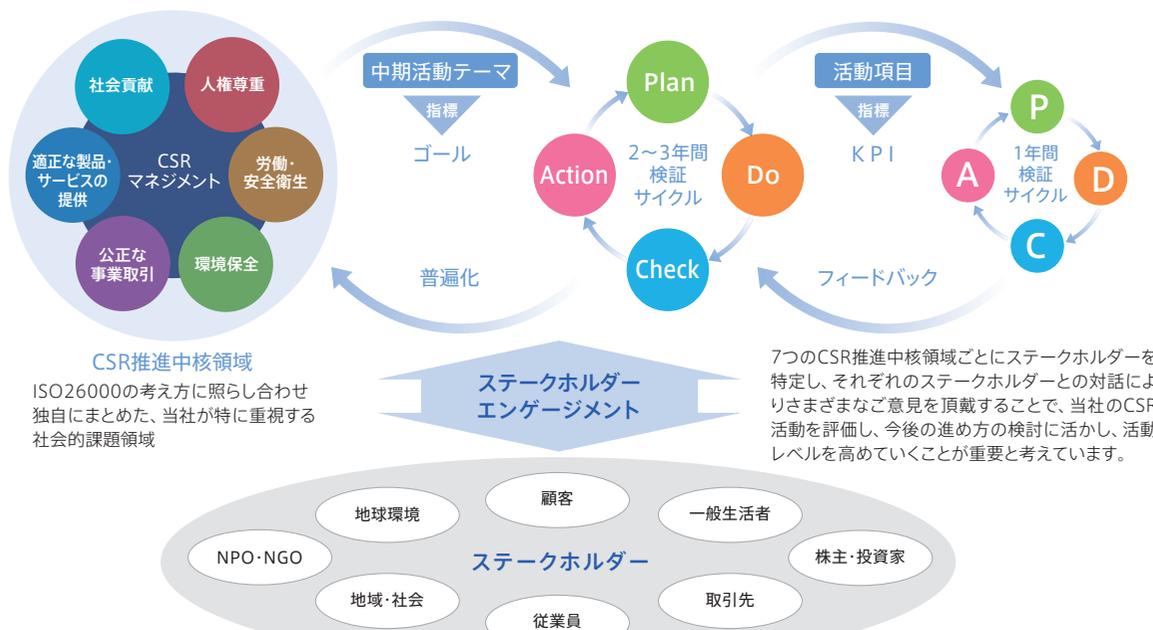
参天製薬グループは「天機に参与する」という基本理念に基づいた事業活動を通じて、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL向上に貢献し続けます。

CSRガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、ISO26000の社会的責任の原則を尊重しCSR活動を推進します。*1 ● 参天製薬グループは、CSR推進フレームワークに沿ってCSRマネジメントによるCSR活動を推進します。*2 <p>*1 説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重 *2 ISO26000を参考に当社独自に定義したものを</p>
適正な製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、適用される法規、規格、基準を満足し、最新の科学技術を応用して、消費者に信頼される高い品質を確保した製品とサービスを提供します。
公正な事業取引	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業活動を行う国や地域における法規・事業慣行等を遵守します。 ● 参天製薬グループは、取引先を私たちのパートナーと考え、相互の発展をめざすとともに、法規・事業慣行等の遵守を求めます。
人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業を行うすべての国と地域において、人権を尊重した活動を推進します。 ● 参天製薬グループは、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、お互いに敬意を払い、連帯感のある職場づくりを推進します。
労働・安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、「人命」を第一に考え、従業員の安全確保および健康増進を図り、働きやすい職場環境の維持・向上を推進します。
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、地球環境を保護・保存し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ための活動を推進します。
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 参天製薬グループは、事業分野における医療の発展、福祉の充実に向けた活動、および良き企業市民としての活動を推進します。

CSR活動の実践

CSR活動の実践においては、7つの「CSR推進中核領域」ごとに「中期活動テーマ」と、より具体的な「活動項目」を設定し、短期と中期でPDCAサイクル※を回すことにより、CSR活動の確実な推進に努めています。活動の進展状況や環境変化を踏まえて、「中期活動テーマ」ごとにゴール(中期的に実現したい姿)を、「活動項目」ごとにKPI(Key Performance Indicator)を定め、設定した指標に基づきCSR活動の充実を図ります。

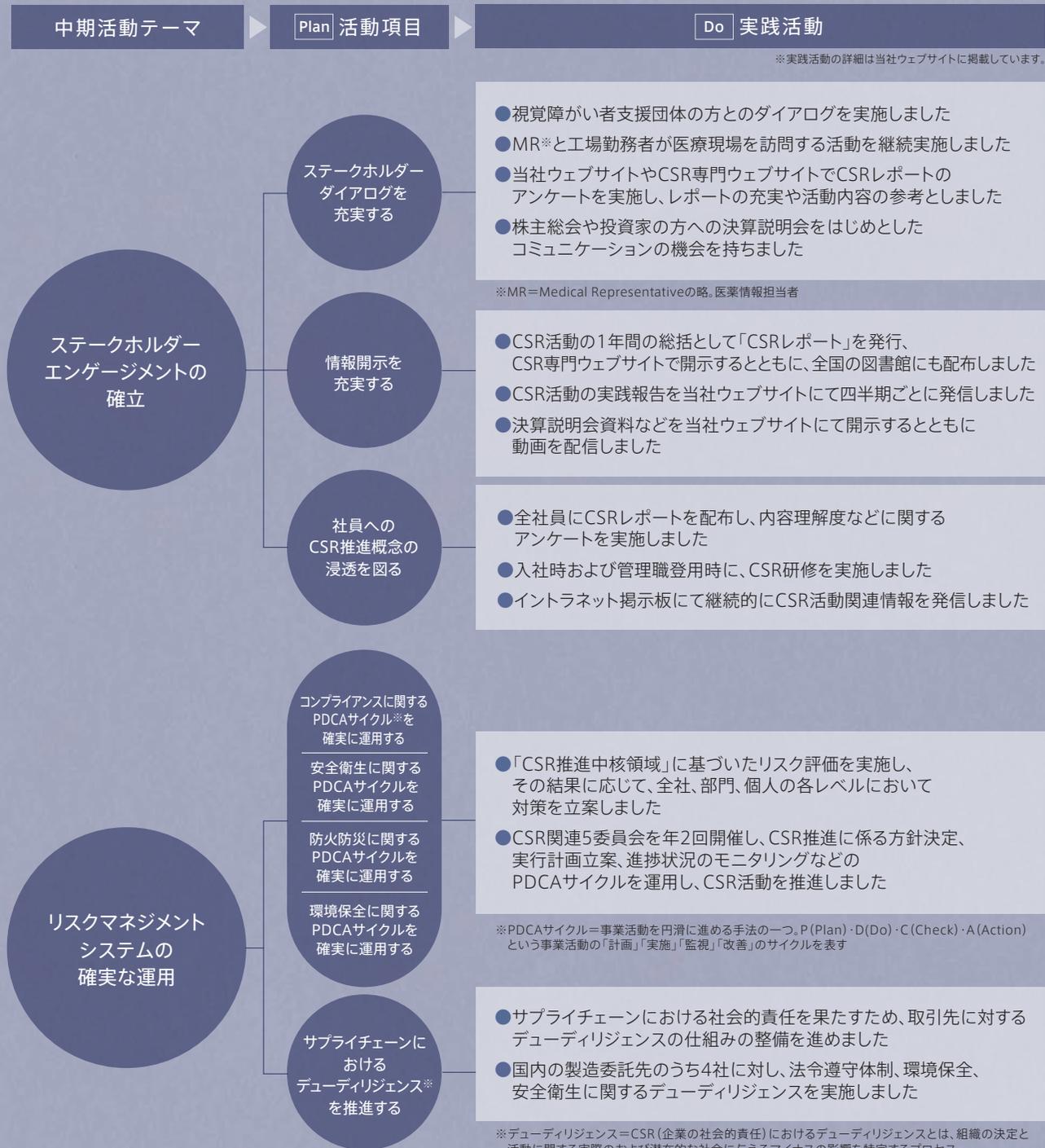
※PDCAサイクル=事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す。



CSRマネジメント

参天製薬グループは、ISO26000の社会的責任の原則を尊重しCSR活動を推進します。^{※1}
 参天製薬グループは、CSR推進フレームワークに沿ってCSRマネジメントによるCSR活動を推進します。^{※2}

^{※1} 説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重
^{※2} ISO26000を参考に当社独自に定義したもの



※実践活動の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P31~32)に掲載しています。

眼科領域における貢献を通じた 参天製薬の社会的使命の再認識



参天製薬は、企業としての社会的責任を果たしていくために、ステークホルダーに対して情報を発信し、そして、得られた評価や期待などのご意見を参考としてCSR活動を充実させる「ステークホルダーエンゲージメント」を重視しています。ステークホルダーの方と直接対話する「ステークホルダーダイアログ」は、その有効な手段の一つです。昨年は3名の眼科医の先生方から、ロービジョンケア※1の重要性についてご意見をいただきました。このことも踏まえ、今年は2012年から交流を重ねている視覚障がい者支援団体の日本ライトハウス、京都ライトハウスからお二人をお招きして、参天製薬に対する評価や期待をお聞かせいただきました。

※1：ロービジョンケア＝視覚に障がいのある人が、保持されている視機能を最大限に活用し、自立して、できるだけ快適な生活を送れるよう支援する眼科医療や福祉のこと

眼科領域に特化した企業として 参天製薬にできることを模索して

津田 3年前に大阪市で、社会福祉法人日本盲人会連合主催の全国盲女性研修大会が開催され、そのお手伝いをした時に、初めて参天製薬の皆さんにお会いしました。ボランティアで来られていた社員の皆さんが、テキパキと動いて協力しておられた姿が印象に残っています。

参天製薬さんにとって視覚障がい者は製品のユーザーでもあるわけですが、

CSR方針として、眼科領域における医療の発展に加えて、福祉の充実に対する貢献を掲げておられると後に伺い、そのことを社員の皆さんが実践されていることに感銘を受けました。

今田 当社は基本理念の中で、「目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への寄与を行う」ことを掲げています。

しかしながら、患者さんや目の不自由な方と接する機会のある社員は限られて

います。そして、視覚に障がいのある方に直接、社員がかかわる取り組みは、実はここ最近始まったばかりなのです。

東日本大震災後のボランティア活動に社員を派遣した際、参加した社員が率先し一所懸命に取り組む姿を見て、「直接向き合う体験が人を動かす」という思いを強くしました。そして、社員が直接患者さんや目の不自由な方のためにできることがあるのではないかと考え、2011年後半から、視覚特別支援学校や視覚障がい者団体、視覚障がい者支援団体を訪問



社会福祉法人 日本ライトハウス
視覚障害リハビリテーションセンター
所長 兼 職業訓練部長

津田 諭氏

を探すことを中心に考えていましたが、社員自身が現場に伺い、患者さんや目の不自由な方と交流する機会をいただく、つまり、双方向的な交流が理想の姿なのだと考えを改めるようになりました。そのような中で、津田さんのお話にありました全国盲女性研修大会でのボランティアの機会をいただき、日本ライトハウスさん、京都ライトハウスさんとの交流につながっていきました。

津田 参天製薬さんには、視覚障がい者も楽しめる副音声付き映画会やチャリティコンサートへの協賛、盲導犬育成のスポンサーにもなっていていただき、これまで2頭の盲導犬をユーザーに提供することができました。ボランティアを通じた交流という面では、私どもの視覚障害リハビリテーションセンターで年1回開催しているライトハウス祭りでさまざまな仕事をお手伝いいただいています。

山本 我々も2013年から京都ライトハウスまつりをお手伝いいただいています。また、2014年には、京都市で開催された視覚障害リハビリテーション研究発表大会もお手伝いいただきました。

今田 日本ライトハウスさんや京都ライトハウスさんからボランティアの機会などをいただき、延べ100人近い社員が交流させていただくことができています。また、盲導犬訓練所の見学会にも参加させていただき、盲導犬の貸与式ではユーザーの方から直接お話を伺う貴重な経験もさせていただきました。本当にありがとうございます。



社会福祉法人 京都ライトハウス
法人事務所 所長

山本 たる氏

長い歴史を持つ日本ライトハウス・京都ライトハウスの歩み

今田 日本ライトハウスさん、京都ライトハウスさんともに、視覚に障がいのある先人が創立された歴史ある団体でいらっしゃいますね。

津田 日本ライトハウスは、大正年間、岩橋武夫が大阪で創始し、以来90年以上になります。中途失明で一時は死も考えた岩橋が、福祉という言葉もない時代に、点字図書の製作や貸し出しから始め、視覚障がい者の社会参加と地位向上に取り組んできました。

山本 京都ライトハウスは、つい最近50

社会福祉法人 日本ライトハウス

1922年に点字図書づくりに着手して以来、視覚障がい者福祉一筋に取り組み、現在、大阪市内とその近郊4拠点で、視覚リハビリテーション、盲導犬育成事業、視覚障害者情報提供事業、点字出版事業の各施設を運営。視覚障がい者の多様なニーズに応える総合的施設をめざしている。



社会福祉法人 京都ライトハウス

「京都に視覚障がい者のための図書館を」という願いに応え1961年に創立。新たな事業を加えつつ視覚障がい者の総合施設として発展してきた。地元眼科医会とのつながりも深く、中途失明された方などがリハビリなどのサービスを適切に受けられるよう、医療分野と福祉分野との連携強化にも積極的に取り組んでいる。



周年を迎えたところです。創設者の鳥居篤治郎は、自身が視覚障がい者ですが、京都にできた全国初の盲学校で教頭まで務めた教育者でもあります。自分の家を寄付して社会福祉法人化し、点字図書館を始めとしたところ、眼科医で京都府医師会長もされた富井清さんが市長になられ、その方の支援で、市の病院の移転で空いた古い建物を使えることになりました。そこで、新たに得た建物で図書館に加え、点字図書や録音図書の製作なども始め、生まれながらに目が不自由な子どもさんとそのご家族を支援するあいあい教室や、高齢になられた方の盲養護老人ホームへと活動を広げてきました。鳥居宅だった図書館は、鳥居寮として中途失明された方のリハビリテーションの拠点に転用されました。

津田 日本ライトハウスでは、視覚リハビリテーションの拠点として、1966年に現在の視覚障がいリハビリテーションセンターを設立し、歩行訓練や日常身辺自立訓練など視覚障がいに起因する不自由さを軽減する訓練や、あんま・マッサージ・指圧師、鍼師、灸師以外の新職業の開拓に取り組みました。続いて点字図書や録音図書の製作や提供などを行う情報文化センターを開き、盲導犬育成事業も始めました。

山本 京都ライトハウスでは、10年以上の運動が実り、2004年に建物を一新することができました。それを機に、視覚障がいに加えて、身体障がいや知的障がい、精神障がいにも間口を広げた就労支援、生活介護、相談支援の取り組みを開

始しています。2016年の初夏には、特養・養護・デイサービス・居宅介護支援といった高齢者向け事業の新拠点をスタートさせる予定です。

津田 京都ライトハウスさんとは、共通する事業が多く、活動現場では常に交流、連携させていただいています。

経験を重ねることで深まっていく かかわりと得られる気付き

今田 日本ライトハウスさん、京都ライトハウスさんと交流させていただき2年強が経ちましたが、お気付きの点などをお聞かせください。

山本 私は、初めて参天製薬さんが京都ライトハウスまつりの応援に来てくださった時の印象が忘れられません。誤解を恐れずに言うと、大人が来たなと(笑)。ボランティアは学生さんが多く、彼らには彼らならではの輝き、いきいき感がありすばらしいですが、参天製薬の皆さんは、キビキビ感が違って、判断力もすごい。2014年の視覚障がいリハビリテーション研究発表大会でも、通常はボランティアさんにはお願いできないような複雑なご案内を引き受けてくださり、非常に助かったと聞いています。イベントの現場で職員が足りない時にその代役をお願いするようなこともありました。また、より効率的な人の配置や、学会などのお手伝いの経験がある方からは受付や会場内の動線についての提案もいただき、「ぜひ、初期の段階からでも、ご相談ください」ともおっしゃっていただきました。



参天製薬株式会社CSR統括部
コンプライアンス推進室長

今田 真

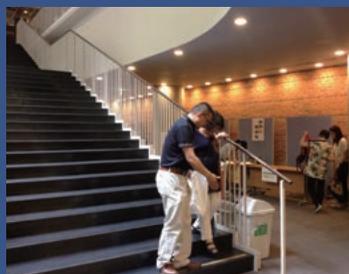
津田 ボランティアさんは受身的な方が多いと思いますが、参天製薬の皆さんは、経験の有無にかかわらず少しでも現場がうまく回るように考え、提案をしてくださいます。例えば、他のボランティアの方との調整を意識して「私たちはこちらを担当しましょうか」など、やるからにはいいものにしていこうという気持ちが表れているように思います。

今田 これはボランティアをされる方に共通していると思うのですが、当社の社員も、ボランティアの募集に手を挙げた時点で、「何か自分にできることはないか」、「自分にできることを何でも精一杯やろう」という気持ちでいます。一方で、

参天製薬とライトハウスのかかわり

ライトハウス祭りなどのイベントへのボランティア参加

日本ライトハウス、京都ライトハウスが、利用者、ボランティア、近隣の方々の交流を目的として開催しているイベントに、2013年から毎年、社員有志がボランティアとして参加し、目の不自由な方の誘導(手引き)などを行っている。2014年7月に京都で開催された「第23回視覚障がいリハビリテーション研究発表大会」にも、延べ13人の社員がボランティアとして参加した。



イベント会場での目の不自由な方を手引きする様子

盲導犬育成のための支援

主要事業場に盲導犬育成支援の啓発パンフレットを掲示するとともに募金箱を設置し、社員と会社から、日本ライトハウスの盲導犬育成事業に寄付を行っている。



能登工場に設置された募金箱と啓発パンフレット

「どのようにお声がけすればよいのだろう」「事故が起きないだろうか」といった不安もあります。このことに対しては、ボランティア参加者全員が、必ず事前に実技研修を受講するようにしています。この中で、これまでの経験から考えられる状況や対処法などを伝えることで、心の準備ができるようになってきました。これも経験を重ねる中で実感できてきたことですが、「現場で、わからないことは質問してください」「仲間や他のボランティアの方などと協力し合い、楽しんでください」と伝えていきます。何よりも、目の不自由な方とお話をさせていただくことで、自然と自分にできることを考え行動に移しているのだと思います。



活動後には、参加した社員の間で感想や気付きを共有し合うようにしています。「次に目の不自由な方をお見かけした時には、積極的にお声がけしたい」「家族や職場の同僚に自身の体験を共有したい」「自分の担っている仕事の重さを再認識できた」などと話をしてくれています。機会を重ねる中で、目の不自由な方や職員の方、他のボランティアの方とのかかわりが深くなり、得られるものも多くなっていくように感じています。

山本 これからも継続的な交流の中で気付かれたことを提案いただき、それを我々も新たな気付きに結びつけていけたらと願っています。

声をかけることから始まる バリアフリー社会への一歩

津田 今は街中で白杖をついて歩いている人を見かけることは珍しくありませんが、その方が困っているように見えても、私たちはとすると、「もし声をかけて断られたらどうしよう」と考えて、声をかけそびれてしまいがちです。でも、視覚障がい者にとって、周囲から気軽に声をかけてもらえることはありがたいことです。本当に困っていれば手助けを頼み、困っていなければ「大丈夫、ここは一人で行けますから」と気軽に断れる、そうしたフランクに声がかける社会であってほしいと思います。ですから、街中で見かけた視覚障がい者が困っているように感じたら、臆せずに声をかけてあげたい。私は、このことを機会あるごとにお伝えしています。バリアフリー社会の実現には、まず、声をかけていただくことが必要なのです。

山本 障がいのある方は気高く美しくて心が洗われると言われる方もおられますが、実際は人を憎んだり、悲しんだり、間違った考え方もする、マイナスの面も併せ持った同じ人間です。周囲の状況も本人の個性も一人ひとり違います。ですから、何もかも手助けしてあげないといけない障がい者としてひとくくりに見るのではなく、個別の課題を抱えて生きてい



る一人の人として見て応援していただきたいと思います。例えば手引きの声をかけて断られても、自身で解決できる状況にあったのだと理解できます。そういう本当の理解が、バリアフリー社会への入り口になるのです。

今田 ハード面の整備も大切ですが、社会は人のかかわりで成り立っていますから、お話しくださったように、障がいの有無にかかわらず困っている人を見かけたら、皆が自然と声をかけられることが大切ですね。ボランティアに参加した社員は、「目の不自由な方を見かけることがあったら声をかけます」と言います。家族や親しい方に話したり、一緒にボランティアに来られることもあります。体験の広がりかバリアフリー社会への一助になるとの思いを強くしました。

眼科領域の福祉向上のために 参天製薬への期待

今田 最後に、当社への期待をお聞かせいただけますでしょうか。

津田 アジアやアフリカでは、いまだにトラコーマ^{※2}で失明してしまう人が少なく

※2:トラコーマ=東南アジア、中近東、アフリカなどに広くみられるクラミジア・トラコマチスの感染による伝染性の慢性結膜炎

視覚に障がいのある方々にかかわる取り組み

点字ブロック理解・啓発活動への参加

3月18日の「点字ブロックの日」にちなんで、各地で点字ブロックの理解・啓発活動が開催されている。2014年度は、石川・滋賀・奈良・大阪の各府県の活動に延べ34人が参加し、通行人の方々に啓発メッセージが記されたポケットティッシュを配布するとともに呼びかけを行った。



通行人の方々への呼びかけ



活動に参加された皆さまと

ないのです。参天製薬さんは、東南アジアに拠点を設けて、その国の眼科医療のレベルの底上げを図ろうとされている。社業の眼科薬の開発、普及において、新たな国に拠点を設け、その国の中で貢献していこうとされている。ぜひ、発展途上国における眼科医療のレベルアップのために力を尽くしていただきたいと思っています。

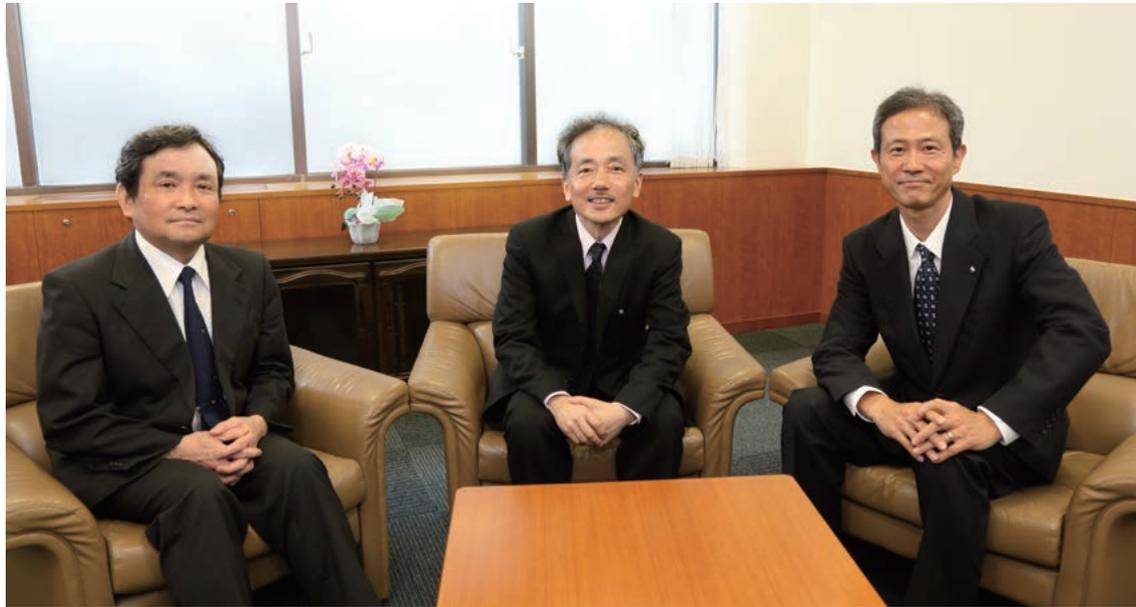
それと、私たちは日頃から、視覚障がい者の実情を社会に伝え、活躍できる場をつくっていきたくと思っています。参天製薬の社員の皆さんにも、視覚に障がいのある人はこんなことを考えているんですよ、こういうふうに生活していきたいと思っていますよといったことについて、直接、お話を聞いていただき、知っていただく、そのような機会もつくっていき

たいですね。

山本 参天製薬さんのネットワークを活かして、啓発活動を深めていくことにご協力いただくことができれば、と考えています。それと、視覚障がい者にとっての大きな課題に就労支援があります。中途失明の人が一年位の期間をかけて入寮できる訓練施設はどんどん減っていて、今では全国でも大阪と京都ぐらいです。また、視覚障害リハビリテーション研究発表大会では就労の成功事例の報告がありますが、実情をぜひ一般企業の方にも伝えていく必要があると考えています。参天製薬さんには、こうした福祉の現状を知っていただくと同時に、外からの視点でご意見をいただき、私たちの活動の発展に力を貸していただきたいという期待があります。

今田 本日はお忙しい中、津田さん、山本さんには、ご意見をいただきましてありがとうございます。当社の取り組みは、まだまだ途についたばかりです。全社員でみればボランティアなどの経験者はまだ一部で、活動できている地域も近畿圏などに限られています。日本ライトハウスさん、京都ライトハウスさんには、引き続き視覚に障がいのある方との交流の機会を、そして、より理解を深める機会をいただけますようお願いいたします。

そして、本日のお話の中でもありました、視覚に障がいのある方の自立や、バリアフリー社会の実現に向けて、私どもが貢献できるを見つけ、尽力してまいりたいと考えます。本日はありがとうございました。



視覚に障がいのある方々にかかわる取り組み

盲導犬と視覚障がい者について理解を深めていただくための取り組み

2014年度の奈良研究開発センター所在地区の催し「高山サイエスタウンフェスティバル」での一コマ。公益財団法人関西盲導犬協会の協力のもと、盲導犬や視覚障がい者が必要とする手助けなどを紹介するコーナーを設け、多くの方に来場いただいた。



盲導犬のトレーニングについて解説の様子

「手引き講習会」の実施

イベント会場でボランティアに参加する社員は、事前に、経験者が講師となって行われる、目の不自由な方の誘導方法(手引き)や注意点などを理解するための講習会を受講する。ボランティアには参加できないが、街中で手助けができるようにと講習会に参加する社員もいる。



手引き講習会の様子

I CSRマネジメント

ステークホルダーエンゲージメントの確立

ステークホルダーダイアログを充実する

医療関係者にモノづくりにおける取り組みを知っていただく

参天製薬では、工場見学などを通じて、点眼剤の製造工程や当社のモノづくりにおける取り組みを紹介しています。

2014年6月には八幡浦生薬剤師会の研修会、9月には滋賀県眼科セミナーにおいて、滋賀プロダクトサプライセンターの工場長が当社のモノづくりの取り組みについて説明する機会をいただきました。滋賀プロダクトサプライセンターをはじめとした国内外の製造拠点を紹介した後、品質保証体系、製造工程に加え、原料の「水」や製造ラインの「空気」、製造に携わる「人」に関して、GMP※基準はもとより独自の規格・基準を設けて取り組んでいることを説明しました。説明後に、参加者の方々からご質問やご意見、ご要望を多数頂戴しました。いただいたご意見やご要望を参考とし、医療関係者や患者さんのニーズに応える製品の開発・製造に努めていきます。



八幡浦生薬剤師会の研修会で説明する様子

※GMP = Good Manufacturing Practice. 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準

株主・投資家への情報開示とコミュニケーションの促進

当社は、株主・投資家の皆さまに対し、会社情報をわかりやすく公平かつ正確に提供することを基本的な方針とし、積極的な情報開示に取り組んでいます。

開示すべき会社情報は、適時、当社ウェブサイトなどを通じて発信し、業績・財務にかかわる情報は、国際的な比較性向上をめざし、国際会計基準 (IFRS) を適用しています。また、アナリスト・機関投資家向けに、決算説明会やカンファレンスコール※を四半期ごとに実施しているほか、証券会社主催の個人投資家向け説明会への参加、海外での投資家向けカンファレンスへの参加や株主・投資家訪問を充実させています。

株主総会ではできるだけ多くの株主の方に参加いただけるよう、集中日を避けて開催し、招集通知は法令の定めより1週間早く発送しています。

また、株主総会に参加できない方のために、郵送に加えインターネットでも議決権を行使できるようにしています。



決算説明会の様子

※カンファレンスコール = 電話会議で行う決算発表

社員へのCSR推進概念の浸透を図る

CSR研修の継続的实施

当社は、社員一人ひとりが当社のCSRの考え方を理解し、高い倫理観を持って行動することが、CSR活動の充実化のためには重要な要素と考えています。そのため、入社時や管理職登用時にCSR研修を実施するとともに経営幹部に対してもCSR研修を実施し、CSR推進概念が浸透した働きやすい職場環境の実現をめざして取り組んでいます。

近年の社会的課題とされているメンタルヘルスケアに対しては、「経営幹部がメンタルヘルスケアに関する正しい知識を持ち、かつ、自社の実態を理解していることが重要である」と考えています。そこでCSR研修の一環として、統括産業医とメンタルヘルス専門契約医が講師となり、経営幹部を対象とした「メンタルヘルス講話」を2015年1月に開催しました。講話に参加した全員がメンタルヘルスケアに対する理解を深めるとともに、メンタルヘルスケアが経営上の重要課題であることを再確認しました。



「メンタルヘルス講話」の様子

リスクマネジメントシステムの確実な運用

PDCAサイクルを確実に運用する

CSR委員会によるPDCAサイクルの運用

当社ではCSR委員会を構成するCSR関連5委員会を運営し、各委員会の委員が所属する事業部・本部や事業場ごとの活動へと展開しています。CSR委員会では、「CSR推進中核領域」の課題に応じた全社目標を設定します。そのうえで、各事業部・本部や事業場における活動を四半期ごとに定期的にモニタリングすることで、計画と実績の差異を確認し、リスク評価、計画修正、追加施策の立案を経て、翌期のプランニングを行います。このPDCAサイクル※を確実に回すことで、CSR活動の充実を図っています。

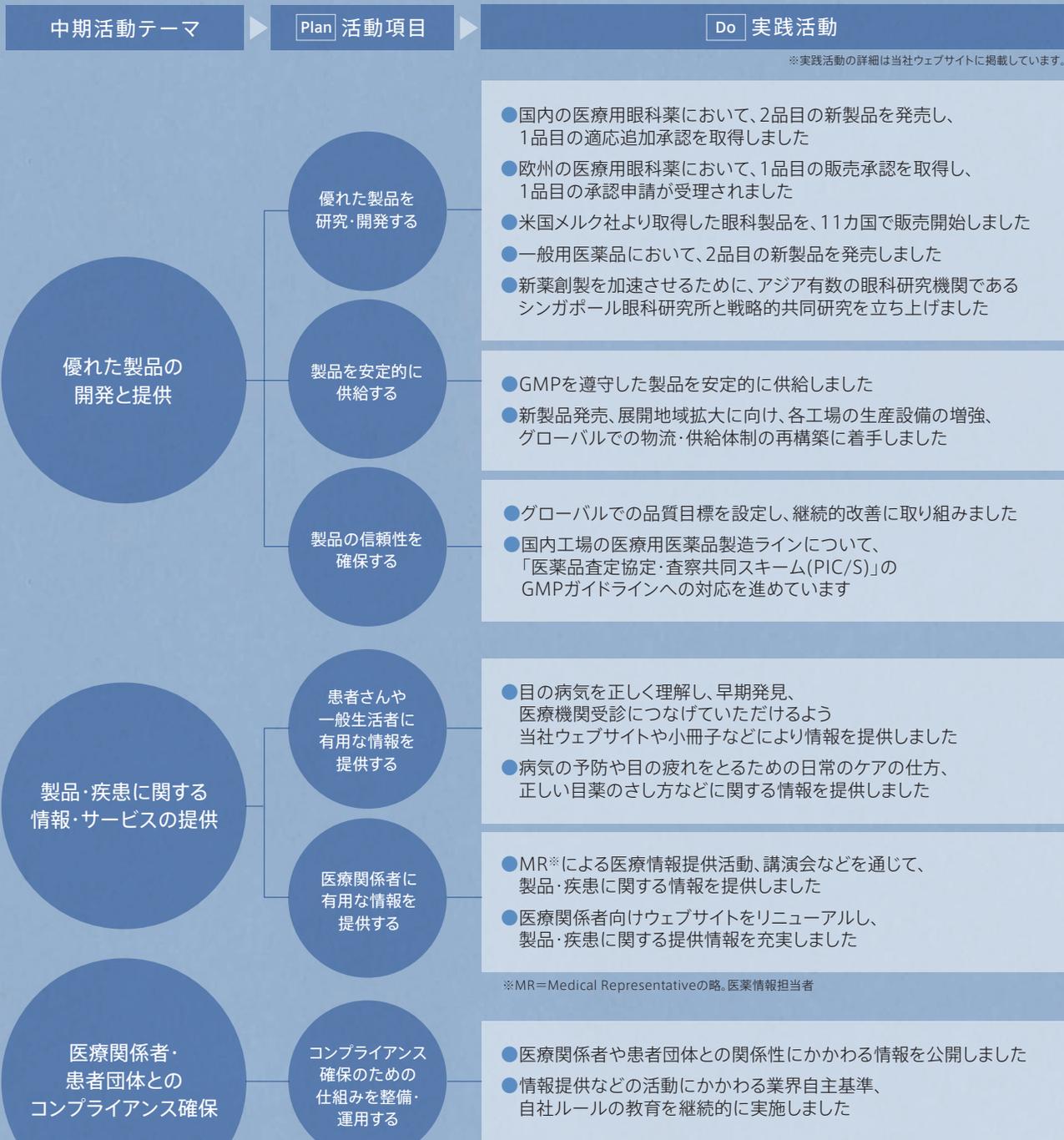


2014年10月に開催された委員会の様子

※PDCAサイクル = 事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す

適正な製品・サービスの提供

参天製薬グループは、適用される法規、規格、基準を満足し、最新の科学技術を応用して、消費者に信頼される高い品質を確保した製品とサービスを提供します。



※実践活動の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

※MR=Medical Representativeの略。医薬情報担当者

※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P31~32)に掲載しています。

希少疾病用医薬品の開発をめざす グローバル・プロジェクト

非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象としたDE-109の臨床開発

希少疾病用医薬品開発の背景

DE-109(一般名:シロリムス)は、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象とした開発中の新薬です。この疾病は、視力が低下したり、ときには失明に至ることもあります。現在の治療では、主にステロイド薬や全身用の免疫抑制薬が用いられています。長期間の使用によって薬剤による副作用を生じることがあり、局所もしくは全身の副作用が少ない新薬が待ち望まれています。しかしながら、推定患者数が日・米・欧合わせても25~30万人の希少疾病*であることから、治療薬の開発は進んでいませんでした。

参天製薬は、2010年に臨床試験途上にあったDE-109の権利を取得し、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として、世界で開発を進めることを決定しました。

*希少疾病=希少疾病とは患者数が非常に少ない疾病。希少疾病用医薬品に指定されたものについては、できるだけ早く医療の現場に提供できるよう、他の医薬品に優先して承認審査がなされるなどの制度がある。日本では患者数が5万人未満、米国では患者数20万人以下が対象

新薬の研究開発について

新薬候補化合物は、前臨床試験で安全性・有効性が確認された後、下記の臨床試験を経て、製造販売承認を受けることで、医療用医薬品として発売できるようになります。



グローバル臨床開発プロジェクトのスタート

DE-109は、初期の臨床試験において一定の安全性が確認されていたことから、2011年5月に第三相臨床試験のプロジェクトを開始することができました。当社内で、この第三相臨床試験は「SAKURA」と呼ばれています。この呼び名は、「ぶどう膜炎の二重遮蔽試験」を意味する英語の頭文字であり、直前に起こった東日本大震災の復興を願い、日本の国花であり希望と活力のシンボルである「さくら」と重ね合わせて名づけられたものです。

患者さんが待ち望んでおられる新薬の早期承認取得をめざしてプロジェクトはスタートしましたが、プロジェクトを進める中では、さまざまな課題を克服する必要がありました。

世界でも患者さんが少ない疾病であるため、第三相臨床試験は17カ国約140施設もの医療機関を対象とする、当社にとって前例のない規模のプロジェクトとなりました。国によって異なる規制に対応するため、手続きの調査から必要な国もありました。また、申請のために必要な膨大な書類も、国ごとの定めに従い作成しなければなりません。さらに、当局の優先的な審査が受けられるよう希少疾病用医薬品としての指定を受けること、世界各国に品質の確保された試験用の医薬品を届けること、試験中の患者さんの安全を確保すること、そして、薬剤の有効性を証明するため膨大なデータを短時間で解析することなどが求められました。

さまざまな分野の専門家たちの連携、協働の結果、2015年2月には、欧州で販売承認申請が受理されました。現在は引き続き、米国・アジアなどでの臨床試験を進め、世界中の患者さんが待ち望んでおられる新薬を、一刻も早くお届けできるよう全力を尽くしています。



サンテン・インク (Santen Inc.)

参天製薬グループは、新薬の開発スピードを加速させるために、新たなグローバル臨床開発体制の基点を日本から米国子会社のサンテン・インクに移しました。世界の患者さんの治療ニーズに応える新薬の早期提供をめざして取り組んでいます。



活動現場の声

Voice 2

非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象としたDE-109の臨床開発

新薬の
早期開発

「新薬を一刻も早く患者さんのもとへ届けたい」 その思いが、プロジェクトチーム共通の目標

17カ国約140施設にも及ぶ規模で実施した第三相臨床試験では、さまざまな分野の専門家たちとの連携と協働が不可欠でした。DE-109開発プロジェクトチームが、共通の熱い思いで一丸となり、目標に向かって努力を傾注してきたその取り組みを、各分野で中心的な役割を担ったメンバーに聞きました。



プロジェクト・マネジメント
ディレクター
キャシー・ケニヨン

DE-109グローバル開発
プロジェクトの推進、進捗
管理などを担当

持ったことで、お互いの役割・責任、そして期待が明確になり、私は自身の役割であるプロジェクト・マネジメントに注力することができました。

世界各国の専門家から構成されるチームを一つにまとめることが私の役割です。会議では多様な経歴を持つメンバーが集まる中、各々の専門性や経験に基づく考え方の違いから意見が相違することもありました。そのような時には、全員でよりよい結論が得られるよう、「プロジェクトのために最善は何か」と問いかけを繰り返し、建設的な議論になるように努めました。

メンバーそれぞれは当初から自らの役割を果たすことに高いモチベーションを持っていましたが、加えて、プロジェクトが進む中で、疾患に対する理解がより

深まり、特に患者さんがステロイド剤などによる副作用でいかに困っておられるかを深く理解しました。このことが、「患者さんのもとに、新薬を一刻も早く届けたい」というメンバー全員の共通の目標となって、個々人のモチベーションがさらに高まるとともに、チームとしての結束が確固たるものとなりました。

プロジェクトを進める中で、さまざまな課題に直面しましたが、この共通の目標に向け、チーム一丸となって協力し合い、乗り越えてきました。患者さんに新薬を届けるために、全力を尽くします。



キャシー(左)と川口哲央(右)

患者さんの期待に応えるために 世界中のメンバーの力を結集する

プロジェクトの初期の段階に、グローバル開発プログラムの統括リーダーである川口哲央と何度も話し合いの機会を

世界中の
メンバーに支えられ
困難を克服

DE-109が、米国食品医薬品局ならびに欧州医薬品庁から希少疾病用医薬品として指定を受けることが、本プロジェクトを進めるための必須条件でした。

指定の取得に際しては、幾度も、新たな科学的論拠などの確認事項が当局から求められ、やりとりを繰り返すことになりました。世界各国の参天製薬グループ内の薬理学、疫学、臨床などさまざまな分野のエキスパートから助言を得ることで、最終的に当局の理解を得て、指定を取得することができました。

国を越えたメンバー間の協働、チームワークは、私にとっての大きな誇りです。

薬事規制/品質保証
アソシエイト・ディレクター
コニー・ステュラント

米国食品医薬品局への各種申請手続き、説明などを担当



第三相臨床試験を開始した時点では、薬剤はまだ、製品レベルの長期間安定したものではありませんでした。このため、世界17カ国140施設で行われる臨床試験において、適正な品質を保った状態の試験薬を、必要な時に、必要な施設に対して届けることは容易ではありませんでした。しかし、世界各国の参天製薬グループおよび社外の専門家の協力を得て、確実に試験薬を届け続けることができました。臨床試験を行っている医師から「あなたの製品は、患者さんの役に立っています」と聞き、DE-109が患者さんのニーズに応える薬剤となり得ることを確信するとともに、このチームの一員であることを心から誇りに感じました。



「患者さんのニーズ」
に応えられることを
確信

製剤開発
シニア・ディレクター
シュリー・マドウンバ

製剤化、製造工程開発、試験用薬の提供、品質情報管理などを担当

安全性監視
シニア・ディレクター
リサ・ローレンス・宮崎

安全性情報収集、懸念の検出、評価、分析、予防管理などを担当



患者さんの
安全のために
最善を尽くす

患者さんの安全性を確保することは、最優先事項です。そのために、すべての患者さんの症状や薬剤の投与を含めた治療法、その結果など、臨床試験の現場からあらゆる情報を集め、分析します。臨床試験を行っている医師と直接話もします。そのうえで、ぶどう膜炎の専門家を招いて会議を開催し、得られた情報や分析結果を客観的に見直しました。

この結果、患者さんの健康被害を防止できただけでなく、患者さんの治療にかかわる有益な情報を数多く得ることができました。今後も私たちは、患者さんのニーズに応える治療薬の開発と安全性の確保に努めていきます。



臨床試験データ解析
シニア・ディレクター
ウェイ・ルー

試験データの生物統計学的解析などを担当

医薬品はその有効性ととも安全性が確認されて、初めて新薬として世に出すことができます。そのためには、客観的かつ科学的な事実として臨床試験の結果を示す必要があり、膨大なデータの処理を行わなければなりません。データの解析には、疾患ごとに異なるプログラムの開発が必要です。当プロジェクトでは、短期間でプログラムを開発する必要がありました。

国外の大学の統計学の教授や、データ解析やシステム開発の専門家のもとに何度も足を運び、助言を求め、このことを実現することができました。

このプロジェクトを通じて得られた多くの経験と学びを、今後のプロジェクトに活かしていきます。

得られた経験を
さらなる新薬創製に
活かしたい

II 適正な製品・サービスの提供

優れた製品の開発と提供

優れた製品を研究・開発する

新製品の提供

医療用眼科薬領域において、緑内障・高眼圧症治療剤では、2014年11月に国内で「タブコム配合点眼液」を、2015年1月に欧州で「タブティコム」として発売しました。

網膜疾患治療剤では、眼科用VEGF阻害剤「アイリーア[®]硝子体内注射液」について、2014年9月に病的近視における脈絡膜新生血管^{※1}、2014年11月に糖尿病黄斑浮腫^{※2}、2015年6月に網膜静脈閉塞症^{※3}に伴う黄斑浮腫で適応追加承認^{※4}されました。

角結膜疾患治療剤では、2015年3月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とした欧州初の医療用治療剤として、「アイケルピス点眼液」が販売承認を取得し、2015年7月以降順次、ドイツやイギリスなど欧州各国で発売を開始しました。



「タブコム配合点眼液」



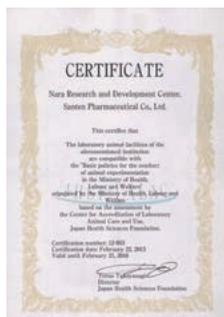
「アイリーア[®]硝子体内注射液」

- ※1: 病的近視における脈絡膜新生血管 = 後眼部に病的変化を伴う強度近視の患者さんにおいて網膜に異常な新生血管が形成される網膜疾患
- ※2: 糖尿病黄斑浮腫 = 糖尿病の合併症として網膜の血管が障害され黄斑部にむくみが生じ、視力低下につながる疾患
- ※3: 網膜静脈閉塞症 = 光を感じる網膜において、血流が阻害される疾患
- ※4: 「アイリーア[®]硝子体内注射液」の適応追加承認 = 製造販売元のバイエル薬品株式会社が「アイリーア[®]硝子体内注射液」の適応追加承認を取得しました

研究活動における動物福祉への配慮

医薬品の研究開発を進めるうえで、薬の安全性や有効性を確認するための動物実験は不可欠です。当社では、実験動物の生命尊重、動物愛護に配慮し、適正な飼育環境の確保に努めています。また、「使用動物数の削減」、「動物を使用しない代替法の採用」、「苦痛の軽減」、「実験者と委託者の責任」の4R（それぞれの英語の頭文字のRをとって表現）も推進しています。そのために、動物愛護や実験動物に関する法規制などに準拠した社内規程を制定し、すべての動物実験計画を「動物実験委員会」で審査し、研究所の責任者が承認した最低限の実験のみを実施しています。

これらの当社の取り組みは、公益財団法人ヒューマンサイエンス振興財団動物実験実施施設認証センターによる第三者の評価・検証を受け、適合施設として認証を取得しています。



第三者検証による認定証

製品・疾患に関する情報・サービスの提供

医療関係者に有用な情報を提供する

医療関係者向け会員制ウェブサイトのリニューアル

多様化する医療ニーズに応えた情報をタイムリーに提供するため、医療関係者向け会員制ウェブサイトの充実を図り、「参天メディカルチャンネル」としてリニューアルしました。



医療関係者向け会員制ウェブサイト「参天メディカルチャンネル」

「参天メディカルチャンネル」には、検査、診断、治療、手術などの動画を視聴いただける「眼科学術ビデオライブラリー」を新たに設け、当社が日本で販売する製品の情報や、医療関連ニュース、日々の診療に役立つ情報などを発信しています。また、ご希望の方にはメールマガジンを配信し、最新情報をタイムリーにお届けできるよう努めています。

MR^{*}による医薬情報提供活動と併せて、「参天メディカルチャンネル」を通じて医療関係者の方に情報を提供することにより、患者さんと患者さんを愛する人々への貢献をめざします。

※MR = Medical Representativeの略。医薬情報担当者

国際眼科学会における情報の発信

当社は、眼科医療の発展に寄与するため、学会開催を支援し、セミナーやシンポジウムを学会と共催することで最新の診断・治療に関する情報発信に努めています。

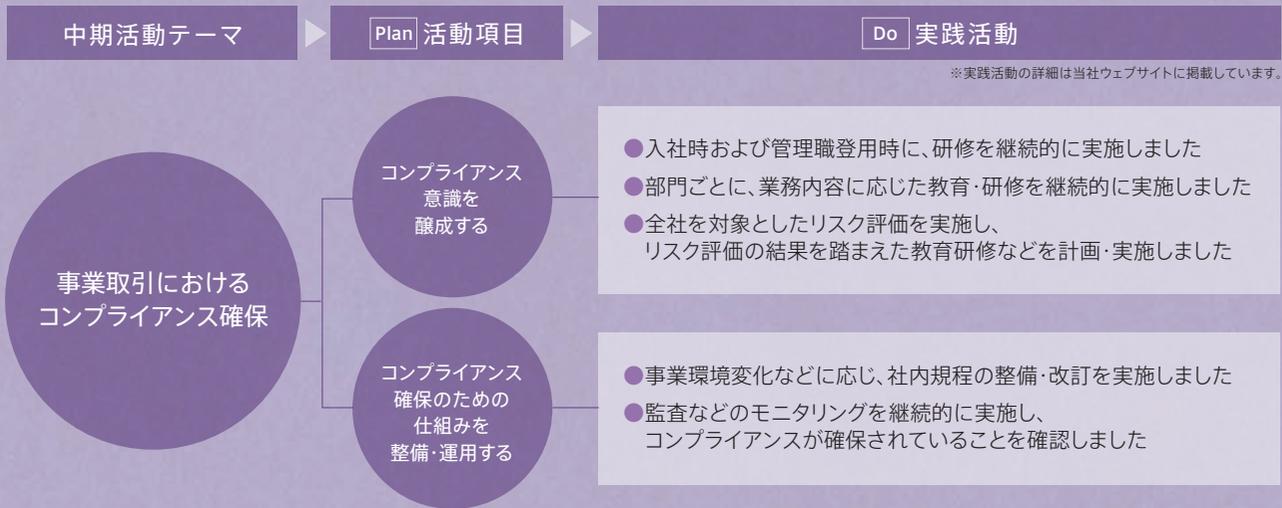
2014年4月、第34回国際眼科学会 (WOC: World Ophthalmology Congress) が東京で開催されました。当社は、「世界中の人々の失明予防、視力回復のために眼科医療の世界水準を向上させる」というWOCのミッションに賛同し、唯一のダイヤモンドパートナーとして、日・米・欧・アジアの医療関係者を対象に、角膜や緑内障、ドライアイ、感染症など、合計10本のシンポジウムを企画・実施し、累計5,000名の方に参加いただきました。また、今回のシンポジウムに参加いただいた方々からはアンケートによりご意見を伺いました。これらの情報をもとに、医療関係者の方が求めておられる情報を、今後も継続して発信していきます。



開催されたシンポジウムの様子

公正な事業取引

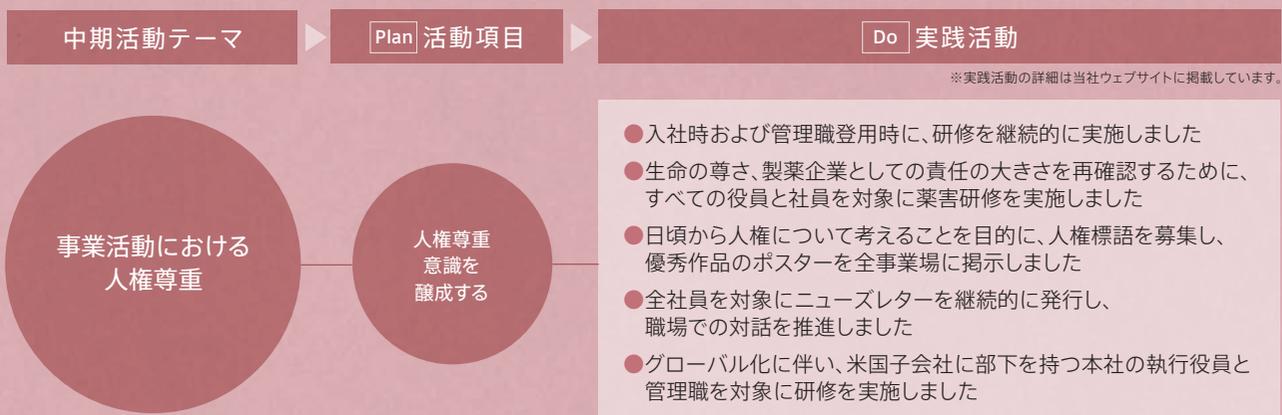
参天製薬グループは、事業活動を行う国や地域における法規・事業慣行等を遵守します。
 参天製薬グループは、取引先を私たちのパートナーと考え、
 相互の発展をめざすとともに、法規・事業慣行等の遵守を求めます。



※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P33~34)に掲載しています。

人権尊重

参天製薬グループは、事業を行うすべての国と地域において、人権を尊重した活動を推進します。
 参天製薬グループは、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、お互いに敬意を払い、
 連帯感のある職場づくりを推進します。



※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P33~34)に掲載しています。

事業取引におけるコンプライアンス確保

コンプライアンス意識を醸成する

業界自主規範の浸透に向けた取り組み

参天製薬を含む研究開発型製薬企業72社が加盟する「日本製薬工業協会」(以下、製薬協)では、製薬企業の事業活動が患者さんの健康・生命に直接かかわるものであることに加えて、公的医療保険制度のもとにあることから、2013年4月に加盟会社のすべての役員・社員に対し、高い倫理観に基づいた行動を求める業界自主規範として「製薬協コード・オブ・プラ



「製薬協コード」の冊子



「理解促進月間のポスター」

クティス」(以下、製薬協コード)を制定しました。また、11月を「コード・オブ・プラクティス理解促進月間」とし、会員会社が一体となって理解促進に取り組んでいます。

当社では、製薬協が作成した「理解促進月間のポスター」に責任者が署名し、全事業場に掲示しました。併せて、イントラネット上の掲示板を通じて、「製薬協コードなどの法令・業界自主規範を再確認し、公正、適切かつ倫理的な行動をとること」を求めるメッセージを社長から発信しました。

コンプライアンス確保のための仕組みを整備・運用する

公正な取引を確保するための仕組みの整備と運用

当社では、競合見積もりを行うとともに、品質、納期、経営上の信頼性などを総合的に評価したうえで、購買先・仕入先の決定が適正になされるように「購買管理規程」などの社内規程を整備しています。また、暴力団排除条例に則った対応にも取り組んでいます。併せて、利益相反防止のために、取引先からの利益提供の禁止について「参天企業倫理綱領」の「行動規範」に規定、相互に牽制の効く体制の整備も行っています。

これらのことが確実に実施され得るよう、管理職による自己点検において、規程などの理解状況と遵守状況の確認を行うとともに、社内監査を定期的にも実施しています。

事業活動における人権尊重

人権尊重意識を醸成する

事業のグローバル化に伴うマネジメント研修の実施

当社では、海外への事業展開の加速に伴い社員の多国籍化が進み、異なる文化的背景を持つ人と仕事をする機会が急速に増えています。社員同士が敬意を払い、協働するためには、国や地域による考え方や仕事の進め方の違いを理解することが不可欠です。

また、米国の子会社が所在するカリフォルニア州では、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント防止のための定期的な研修受講とその記録が法律で義務付けられています。

これらのことから、2015年2月、米国子会社に部下を持つ本社の執行役員と管理職を対象に、歴史、習慣、法律などの背景から具体的な指示やアドバイスの仕方など、マネジメント上の注意点について理解を深めることを目的とした研修を実施しました。

今後も各国の法令遵守はもとより、異なる国や地域の社員同士が円滑に意思疎通を図り、同じ目標に向かって仕事に取り組むための環境整備に努めていきます。



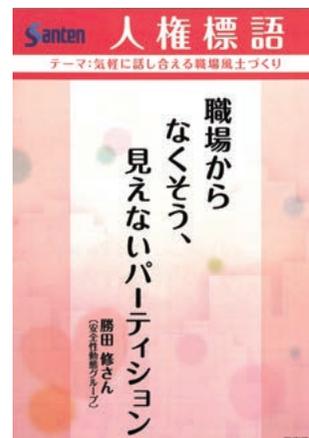
マネジメント研修の様子

「標語の募集」を通じた人権尊重意識の醸成

当社では、人権啓発活動の一環として、毎年、全社員を対象に人権標語を募集しています。2014年度も、12月の「人権週間」に先立ち、人権標語を募集しました。差別的な言動や個人の尊厳を傷つけるような言動をなくすためには、お互いに気持ちを伝えやすい、相談しやすい職場であることが重要と考え、「気軽に話し合える職場風土づくり」をテーマとしました。

応募作品の中から全社員の投票によって選ばれた優秀作品を表彰するとともに、社員が日頃から人権尊重について考えるきっかけとなるよう、優秀作品のポスターを全事業場に掲示しました。

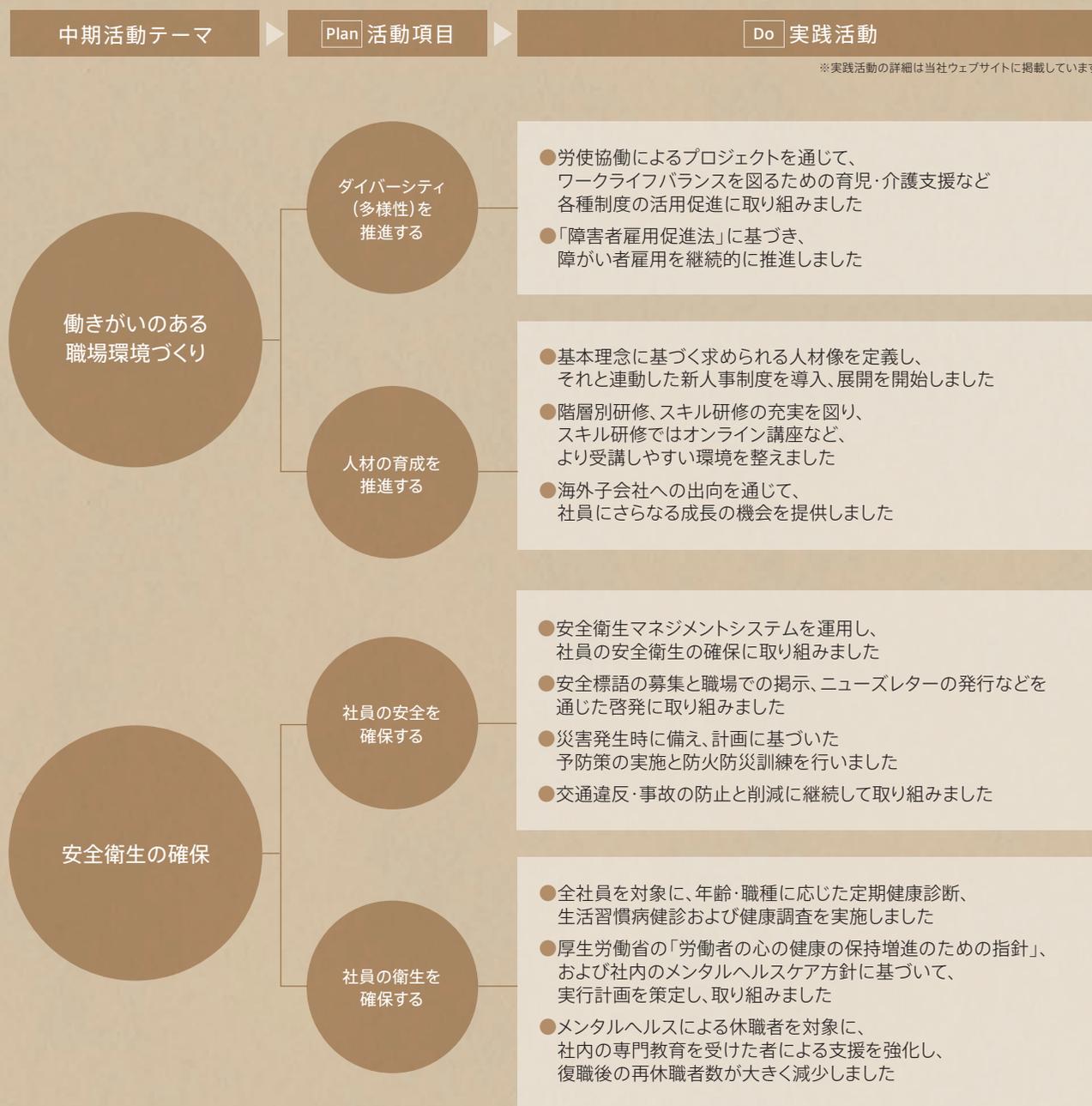
今後も、社員一人ひとりが、「差別的な言動のない、誰もが暮らしやすい、人権が尊重された社会をつくる」という意識を持ち、行動することを推進します。



2014年度優秀作品のポスター

労働・安全衛生

参天製薬グループは、「人命」を第一に考え、従業員の安全確保および健康増進を図り、働きやすい職場環境の維持・向上を推進します。



※実践活動の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P33~34)に掲載しています。

社員参加型の活動による 健康で働きやすい職場環境の実現に向けて

滋賀プロダクトサプライセンターにおける健康プロジェクト「SMART×3」



滋賀プロダクトサプライセンター

1996年に滋賀工場として竣工。2013年、生産拠点最適化の一環として、製品供給にかかわる本部機能と大阪工場を滋賀工場へ集約し、その際、事業場名を「滋賀プロダクトサプライセンター」に改称。参天製薬グループの製品供給中核拠点としての役割を担っています。

敷地面積: 93,085㎡
操業: 1996年7月

活動の背景

滋賀プロダクトサプライセンターは、他の事業場に比べて「運動習慣が少ない」、「喫煙率が高い」、「ほぼ毎日飲酒する率が高い」という特徴があり、2011年、健康に対する意識の向上を図り、健康度を高めることを目的とし、健康プロジェクト「SMART×3」を立ち上げました。さらに、2013年の組織統合に伴う職場環境の変化などで、ストレスを感じる社員が少なくなかったため、メンタルヘルス面の取り組みにも注力してきました。

「SMART×3」(スマートスリー)がめざすもの・姿勢

「S」「M」「A」「R」のそれぞれに意味を持たせ、「T」にはチームで推進していこうという思いを込めています。

- S** : Smile (笑顔)、Sleep (睡眠)、Sports (スポーツ)
- M** : Mission (任務、使命)、Motivation (自発性、やる気)、Movement (活動)
- A** : Action (行動)、Ability (能力)、Advance (前進)
- R** : Refresh (リフレッシュ)、Relaxation (息抜き)、Recreation (レクリエーション)
- T** : Team (仲間、プロジェクト、職場、工場)

健康プロジェクト「SMART×3」

—これまでの取り組み

職場の声を活かした社員参加型の活動として、事業場全体を巻き込むための多種多様な取り組みを展開してきました。活動の柱は、禁煙・運動・食生活。2013年度以降はメンタルヘルスを含む健康全般へと活動の幅を広げています。

フィジカル面での活動

禁煙

- タバコ自販機撤去
- 工場内終日禁煙デー
- 工場内の喫煙室閉鎖 (屋内禁煙)
- 禁煙啓発ポスター
- 肺年齢チェック

運動

- ウォーキングイベント
- 社外駅伝大会
- 社内での「大運動会」

食生活

- 大学講師による飲酒教育
- 事業場内階段の消費カロリー表示
- アルコール体質遺伝子検査
- 食事面での免疫力強化啓発イベント

メンタル面での活動

- 15時休憩取得の啓発メール
- 年休消化の社員満足度調査
- 睡眠衛生の教育
- メンタルヘルスの啓発DVD
- 職場活性化のための社内ダンスイベント
- 始業前の音楽放送
- 外部講師によるメンタルヘルス研修



ストレスに負けないための コミュニケーションの取り方を学んだ 「メンタルヘルス研修」

2013年度、外部講師を招いて全員参加の「メンタルヘルス研修」を実施。このころの元気力を高めるコミュニケーション術を学びました。



滋賀県 「健康寿命をのぼそう!プロジェクト」 喫煙対策部門 最優秀賞を受賞

「SMART×3」の取り組みが、滋賀県の「健康寿命をのぼそう!プロジェクト」に取り上げられ、2015年1月、喫煙対策部門で最優秀賞を受賞しました。

運動機会の提供とコミュニケーション活性化を めざして開催した「大運動会」

2014年10月、滋賀県立彦根総合運動場にて「大運動会」を開催。晴天のもと家族を含めて104人が参加し、部署の垣根が低くなり、コミュニケーションの輪が広がりました。



健康プロジェクトチーム結成と 数々の試行錯誤

病気に対しては予防が何よりも大切です。私は看護師として特に透析が必要になった患者さんに接する中で、生活習慣の大切さを痛感。改めて勉強し直し、保健師になりました。

赴任当初、働き過ぎからくる体調不良者の健康相談やメンタルヘルスに取り組んでいましたが、社員との面談をしていく中で、保健師として一人で活動することに限界を感じ、職場の声を反映した活動に社員とともに取り組みたいと考え、当時の工場長の後押しもあってプロジェクトチームが結成されました。

プロジェクト発足後は、さまざまな視点でアイデアを出し合えるチームならではの手応えを感じています。いかに事業場の人たちに健康への意識を高めてもらうか。とにかく自分たちで思いつく限りのことを試してみる。そんな試行錯誤によって



月1回開催する健康プロジェクトメンバーによる会議



日頃から事業場内の従業員一人ひとりの健康管理を担う中田

前進していけるのも、メンバーの熱い思いと職場での理解や協力があるからです。

製薬企業であることの責任を胸に、 活動の輪を広げたい

外部講師を招いての学習会や運動会の開催など、成果を実感できる事例も増えてきました。それでも、健康支援活動はまだまだこれからです。かつて禁煙の先駆的企業を訪問した時、率直に「製薬企業なのに喫煙を許しているのはなぜ」と問われたことが、忘れられません。

今は、環境保全と安全衛生に関する方針のもと、各事業場が連携して進める取り組みも始まっています。効果が認められつつある活動を他の事業場にも拡大し、社員の健康への意識がより高まるプロジェクトを推進していきたい。そして、参天製薬グループの社員全員が、参天で仕事をしていてよかったと思える会社にしていきたいと願っています。

活動現場の声 Voice 3

社員の
衛生確保

滋賀プロダクトサプライセンター
における「SMART×3」活動

みんなで知恵を 出し合いながら 健康に対する意識を 高めたい



滋賀プロダクトサプライセンター 健康支援室
保健師・博士(医学)・産業カウンセラー

中田 ゆかり

働きがいのある職場環境づくり

ダイバーシティ(多様性)を推進する

ワークライフバランス実現に向けた制度の整備と活用促進

参天製薬は、2005年度より、労使協働の「次世代育成支援推進プロジェクト」を立ち上げ、育児休業制度、育児短時間勤務制度などの育児支援制度を導入し、次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「くるみん」を2回取得しました。このプロジェクトでは育児に関する支援制度だけでなく、介護のための休暇・休業・短時間勤務に関する制度の整備にも同時に取り組みました。この他に、社員のボランティア活動を支援するための休暇制度の導入など、社員が多様な価値観を認め合い、一人ひとりがライフステージの変化にかかわらず、持てる能力を最大限に発揮できる就業環境の整備に努めています。

さらに、社員が育児休業中に会社制度や公的給付に関する情報の入手や利用者同士の情報交換などができる専用ウェブサイト「参天製薬コミュニティサイト」を開設し、休業中から復職後の不安を解消できるよう支援しています。

2014年度は、育児休業制度対象の女性社員全員が制度を利用し、職場に復帰しています。育児休業取得平均日数は315日でした。また、これらの制度の整備と活用促進により、女性社員の平均勤続年数や管理職比率は増加傾向にあります。

●育児・介護支援制度(抜粋)と利用人数

制 度		2012年度	2013年度	2014年度
特別休暇 (有給)	産前産後休暇	19	18	17
	未就学の子の看護休暇	5	6	7
	介護休暇	3	4	2
育児休業制度		17	17	18
育児短時間勤務制度		14	12	6
介護休業制度	介護休業	1	1	1
	介護短時間勤務	1	1	0
年次有給休暇 積立制度*	家族看護休暇	55	65	63
	小学生以下の子の育児休暇	36	37	40

※年次有給休暇積立制度＝未消化の年次有給休暇を最高40日まで積み立てられる制度

●社員の平均勤続年数

内 訳	2012年度	2013年度	2014年度
全 体	15年1カ月	15年9カ月	16年2カ月
男 性	15年6カ月	16年1カ月	16年6カ月
女 性	13年7カ月	14年7カ月	15年0カ月

●管理職における女性比率推移

2012年度	2013年度	2014年度
6.0%	7.4%	8.6%

安全衛生の確保

社員の安全を確保する

安全衛生マネジメントシステムの構築と運用

社員の安全衛生の向上を図るため、事業場ごとの特性・規模に応じた安全衛生マネジメントシステムを構築しています。各事業場では、定期的に設備や作業などに潜在する危険要因を洗い出し、発生しうるリスクを評価したうえで、対策を実施するリスク低減活動に取り組んでいます。労働災害が発生した際には、発生原因を究明し再発防止策を講じるとともに、安全衛生委員会やイントラネットなどを通じて全社に周知・注意喚起しています。また、海外の事業場においても同様に取り組みを進めており、フィンランドの子会社サンテン・オイでは安全衛生マネジメントに関するOHSAS18001の認証を2008年に取得し、維持しています。中国の蘇州工場でも安全衛生委員会を組織し、活動しています。

2014年度の労働災害発生件数は18件、そのうち業務災害14件、通勤災害4件で、安全衛生マネジメントシステムの継続的な運用により減少傾向にあります。

●労働災害発生件数の推移



全社一斉防災訓練の実施

2013年度から大規模地震の発生を想定した訓練を全社員を対象に実施しています。2014年度は、社員の命を守るための重要な初期行動である安否確認に重点を置いて実施しました。全社の緊急連絡網の点検、「防災カード」に基づき社員一人ひとりが自ら報告することの再確認、事業場責任者と本社とが連携した総合的な安否確認などを実施し、見つかった不備はすぐに改善しました。今後も継続して取り組むことで、防災意識と防災対応力の向上を図ります。



防災訓練における安否確認報告の様子



「防災カード」表紙

環境保全

参天製薬グループは、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、地球環境を保護・保存し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ための活動を推進します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目

Do 実践活動

※実践活動の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

地球温暖化対策

CO₂削減に向けた取り組みを推進する

- 工場などの主要事業場における省エネルギー対策を継続的に推進しました
- 全社をあげて、継続的な節電対策に取り組みました
- 滋賀プロダクトサプライセンターと能登工場を統合組織としてISO14001認証を取得しました

排出・廃棄対策

ゼロエミッション活動を推進する

- 法令や条例などの規制に従い、廃棄物を適正に処理しました
- 3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進しました

環境汚染を予防する

- 法令や条例に従い、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などの継続的なモニタリングを行い、定められた基準を遵守しました
- 奈良研究開発センターでは、化学物質マネジメントシステムを導入するなど、化学物質を適正に管理しました

環境保護

環境保護活動を実施する

- 主要事業場周辺の美化活動を、地域とも連携し行いました
- 生物多様性保全にもつながることから、継続的に森林保護活動を支援しました

▶環境保全に関する実績の詳細は、当社ウェブサイト内の「環境データブック」に掲載しています。

※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P33~34)に掲載しています。

世界最大級の点眼剤生産工場がめざす 環境保全活動

能登工場における徹底した環境保全の取り組み



能登工場

参天製薬が製造・供給している年間3億本にもよる点眼剤の大半を生産する、世界最大級の点眼剤生産工場です。豊富な地下水に恵まれた土地で、参天製薬が世界に誇るマザー工場として、安全で高品質な製品の安定供給を担っています。

敷地面積：66,665㎡
操業：1985年1月

能登工場の環境保全の取り組み

— 継続的な重点テーマ

能登工場は、エネルギー使用量に比例してCO₂を排出しており、その削減は環境負荷低減への最大の課題です。一方、廃棄物削減に関しては、自社で定めるゼロエミッションを達成しており、リサイクルの質の向上に重点を移してさらなる努力を続けています。また、地域とともに進める環境保護活動も、その幅を広げ続けています。

エネルギー使用量の削減

工場のエネルギー効率向上のため、冷凍機やボイラー、ポンプ、照明器具などの導入時や更新時には、エネルギー効率重視の選定を行っています。そして、無駄のない管理を徹底し、継続してエネルギー使用量の削減に努めています。



高効率冷凍機

能登工場の環境課題とこれまでの歩み

点眼剤は、「無菌製剤」と定義されており、気流や室内圧などの管理を徹底して、菌の侵入を許さないクリーンな状態を維持しなければなりません。また、点眼剤の材料となる製造用水は、ろ過・蒸留などを行い、注射用水に匹敵する高品質の水を作る精製技術が用いられています。これらは信頼性の高い製品づくりに欠かせませんが、いずれも恒常的に多大なエネルギーを必要とします。こうした点眼剤生産工場としての特性により、工場全体におけるエネルギー使用量は参天製薬全体の約7割を占めています。中でも能登工場のエネルギー使用量は、参天製薬全体の約4割に達します。

そのため、能登工場では早くから環境保全活動全般に注力し、環境負荷を可能な限り低減する地道な努力を続けてきました。

- 2005 環境対応型高効率ボイラーへ更新
- 2008 排水汚泥の減量化
- 2013 第22回「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」受賞
- 2014 「日本電気協会北陸支部会長表彰」受賞
(平成25年度エネルギー管理優良工場等の部)
- 2015 「いしかわ版里山づくりISO」認証取得

廃棄物削減(3Rの推進)

全廃棄物の約2割を占めていた汚泥を、脱水機の導入により約6分の1に減量化し、廃棄物量を抑制するなど、工夫を重ねゼロエミッションを達成。廃棄物を容器と点眼液に分けて再資源化するなど、小さな積み重ねにより、リサイクルの質の向上を図っています。



汚泥脱水処理装置

地域と一体になった環境保護活動の推進

工場周辺・千里浜海岸・JR敷浪駅清掃、白虎山公園草刈り、宝達山植樹支援などの環境ボランティア活動を通じ地域の環境保護に貢献。また、石川県が各種団体の環境保全活動を認証・支援する「いしかわ版里山づくりISO」の認証を取得しました。



千里浜海岸での美化活動の様子

自分が納得できる 言葉で伝えたい、 現場の一人ひとりが 共感できる環境保全活動

能登工場における徹底した環境保全の取り組み

担当者になることで見えてきた 環境保全活動の奥深さ

私はもともと製造畑で、前職では設備のメンテナンス管理を担当していました。省エネと聞いて頭に思い浮かぶのは、設備の効率をあげることやこまめな電源のオンオフでムダを省くことぐらいですが、能登工場全体の環境保全活動の担当者となったことで、意識が大きく変わりました。自宅でも無意識のうちに電気のムダのチェックやごみの分別をしている自分に気付いて驚いています。意識の変化による効果を自ら実体験でき、それが環境保全活動にとっていかに大切なのかを実感することができました。

また、意識が変わったことで、工場内で実施されている数々の省エネ対策、廃棄物削減対策、地域と取り組む環境保護活動などへの気付きも生まれ、環境保全活動の幅広さ、奥深さが見えてきて、担当者として責任の重さを感じています。



構内の清掃活動を指揮する池田



能登工場の環境保全活動を長年担ってきた池田の先輩、小田豊(左)と

安全衛生にもつながる 環境保全活動への取り組み

工場の環境保全活動は、より広い視野で捉えると、そこで働く社員一人ひとりの安全衛生にも関連します。これを教えてくれたのは、生産部門の環境と安全衛生に関するそれぞれの方針を「EHS方針※」として統合する取り組みです。

私自身の課題は、この方針を工場に展開し浸透させることです。何よりも自分が納得できる言葉に練り上げ伝えることで、現場の一人ひとりが共感できる環境保全活動への第一歩となるに違いありません。方針に示された言葉一つひとつにまでこだわりながらとことん考え抜くプロセスに、今、大きなやりがいを感じています。

※EHS方針 = 環境 (Environment) と安全衛生 (Health & Safety) に関する方針

プロダクトサプライ本部
能登工場 能登業務チーム

池田 義隆

VI 環境保全

地球温暖化対策

CO₂削減に向けた取り組みを推進する

「DBJ環境格付」に基づく最高ランクの格付けを取得
「おおさかストップ温暖化賞」節電賞を受賞

参天製薬は、企業活動の中で重視すべき社会的課題を「CSR推進中核領域」として特定し、具体的に取り組むべき事項を検討するとともに、業界水準を上回る数値目標を設定して、推進をコミットしています。これらの点が高く評価され、2014年10月に日本政策投資銀行より「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付けを取得しました。また、2014年7月から9月までの東淀川区下新庄オフィスの電力使用量を2010年比で28.9%削減した実績が評価され、2015年1月に大阪府知事より「おおさかストップ温暖化賞」節電賞を受賞しました。



DBJ環境格付 認定書



「おおさかストップ温暖化賞」
節電賞 表彰状

CO₂排出量削減の取り組み

当社は、老朽化した機器の更新時に燃焼系から非燃焼系へのエネルギー転換や高効率機器の採用などにより、CO₂排出量削減に積極的に取り組んでいます。2013年度からは、日本製薬団体連合会の低炭素社会実行計画に参加し、「2020年度のCO₂排出量を2005年度比23%削減する」中期目標を設定して取り組みを進めています。2014年度のCO₂排出量は、各事業場で継続的な省エネルギー化や節電対策に取り組んだ一方、休止していた工場が一時的に再稼働した影響で、27,237トンと前年度に比べ6.8%増加し、目標の26,795トン以下は未達成となりました。



※環境保全に関する実績の詳細は、「環境データブック」に掲載しています。

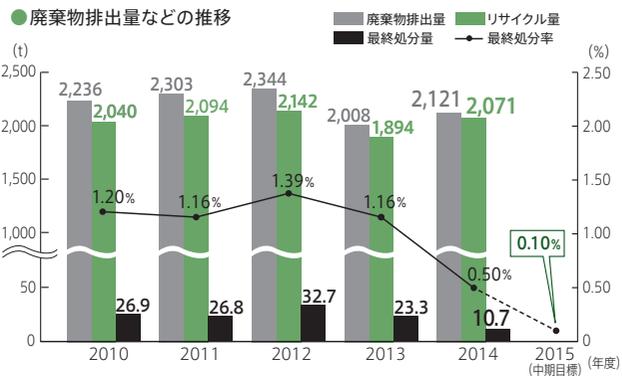
排出・廃棄対策

ゼロエミッション活動を推進する

3R推進による廃棄物削減の取り組み

当社は、廃棄物の発生抑制、分別廃棄の徹底、廃棄プラスチックおよび廃棄製品のリサイクル化など、リデュース、リユース、リサイクルの3Rの推進に取り組んでおり、2015年度までに最終処分率を0.1%以下にすることを中期目標として、事業場ごとの廃棄物削減活動を推進しています。

2014年度は、廃棄物排出量は目標2,030トン以下に対して実績2,121トンで4.5%増となりましたが、リサイクル率は目標94.2%以上に対し実績97.7%、最終処分率は目標0.78%以下に対し実績0.5%となり、廃棄物排出量以外の目標は達成しました。



環境保護

環境保護活動を実施する

事業場周辺や地域の環境美化活動

当社では、地域の環境美化に貢献するため、自治体および地域の団体などと連携して美化活動を行っています。2014年度は、年間で18回の活動があり、延べ534人が参加しました。

主な活動としては、滋賀プロダクトサプライセンターでは5月と11月、能登工場では雪が積もる冬季を除く毎月、下新庄オフィスでは地元自治体と共同で6月と11月に事業場周辺の美化活動を実施し、奈良研究開発センターでは6月と9月に、生駒市の富雄川環境美花推進協議会が開催する「富雄川クリーンキャンペーン」に参加しました。その他、自治体などが主催する環境美化活動などにも参加しました。



「びわ湖の日」美化活動の様子



下新庄オフィス周辺の清掃の様子

社会貢献

参天製薬グループは、事業分野における医療の発展、福祉の充実に向けた活動、および良き企業市民としての活動を推進します。

中期活動テーマ

Plan 活動項目

Do 実践活動

※実践活動の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

事業分野における
医療の発展と
福祉の充実

患者さんや
支援団体などへの
貢献活動を
充実する

- 疾患啓発を目的に医療関係者や患者会の方が開催される市民公開講座に対する支援を行いました
- 視覚障がいや盲導犬について知っていただくイベントを、盲導犬育成団体の協力を得て開催しました
- 視覚障がい者支援団体が主催されたイベントに、社員がボランティアとして参加しました
- 視覚障がい者団体が主催されるイベントや盲導犬育成事業への支援を継続して行いました

医療関係者への
貢献活動を
実施する

- 眼科領域を中心とした医学・薬学の発展を目的に、研究活動および研究者育成に対する支援を継続して行いました
- 国内における角膜移植の普及や、発展途上国を中心とした失明予防活動、眼科医育成プログラムに対する支援を継続して行いました
- タイ保健省からの研修生を受け入れ、無菌医薬品製造所における品質管理に関する研修を行いました

企業市民としての
活動

社会貢献活動を
実施する

- 事業場立地地域と連携した貢献活動として、防災・防犯・交通安全推進活動などに取り組みました
- 地域住民の方や近隣の学校の生徒さんなどをお迎えし、工場見学会を実施しました
- ネパール中部地震の被災地域を支援する活動に対し、会社およびマッチングギフト制度※による寄付を行いました
- 東日本大震災被災地域の復興支援活動を、当社従業員組合が主体となって継続実施しました

※マッチングギフト制度＝社員の寄付と同額を会社が上乗せし、寄付する制度

※活動項目ごとのKPIによる評価(Check)と次年度のKPI(Action)は、「2014年度CSR活動総括」(P33～34)に掲載しています。

VII 社会貢献

事業分野における医療の発展と福祉の充実

医療関係者への貢献活動を実施する

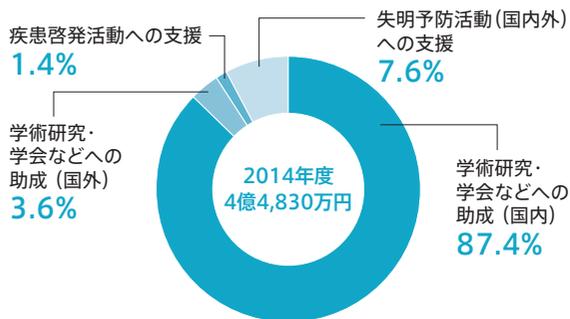
医学・薬学の発展や失明予防活動への貢献

参天製薬では、医学・薬学の発展、医療への貢献を目的として、大学などの研究機関や学会、専門医の方々による研究会に対して助成を行っています。また、疾患啓発活動、角膜移植の普及や国際医療貢献などの失明予防活動に取り組む医療関係者や団体に対する寄付や必要な医薬品などの提供、発展途上国における眼科医育成プログラムに対する支援も継続的に行っています。



ヘレン・ケラー・インターナショナルによる失明予防活動 (写真提供:ヘレン・ケラー・インターナショナル)

● 2014年度の医学・薬学の発展、医療への貢献に関する寄与と対象



企業市民としての活動

社会貢献活動を実施する

大規模災害による被災地支援活動に対する援助

当社は、2015年4月にネパール中部で発生した地震により被災された方々と地域への支援を目的に、会社として300万円を日本赤十字社および国際協力NGOであるジャパンプラットフォームに寄付しました。加えて、マッチングギフト制度により、社員と会社分を合わせて350万円、米国のサンテン・インクからも同制度により1万米ドルを寄付しました。

救援活動や復興支援活動のための義捐金を、日本赤十字社を通じ継続して寄付してきた功績が認められ、金色有功章と感謝状をいただきました。



日本赤十字社から贈られた金色有功章



日本赤十字社から贈られた感謝状

工場見学会の実施

良き企業市民として地域社会の皆さまと接点を持つこと、当社について知っていただくことが大切だと考え、地域住民の方々や海外の医療関係者などをお迎えし、工場見学会を実施しています。2014年度は、能登工場で29団体509人、滋賀プロダクトサプライセンターで28団体457人の方にご来場いただきました。

工場見学会では、当社の概要や点眼剤の製造工程などをご説明した後に、工場内をご見学いただいています。また、お越しいただいた皆さまのご質問にお答えするだけでなく、意見交換の時間を設け、当社へのご要望をお聞かせいただいています。

この他、取引先との間でも相互に工場訪問を行い、品質向上や効率化などに向けた意見交換を通じ、良きパートナーとして双方の発展につなげられるよう努めています。

今後も、さまざまなステークホルダーの方々のご要望に応じた工場見学会を実施できるように努めます。



滋賀プロダクトサプライセンターでの工場見学の様子



ベトナム語版のパンフレット

地域と連携した取り組み

東淀川区にある下新庄オフィスでは、地域と連携した活動に取り組んでいます。

地域防犯力向上への貢献のために、防犯カメラや防犯灯を設置する費用を寄付するなど、地元自治会や警察などと連携して住みやすい地域社会づくりに取り組んでいます。また、2015年1月から防犯パトロールにも参加し、青色パトカーに同乗して防犯対策や防火の安全確認の呼びかけなどを行っています。

他にも、毎年2回、地域住民の方と共同で美化活動を行っています。清掃は、地元自治会の皆さまと社員とで班を組み、持ち場に分かれてポイ捨てのごみ拾いを行います。清掃後には懇親の機会を持ち、自治会の皆さまとの交流を深めています。

今後も引き続き、地域と連携して住みやすい地域社会づくりに取り組みます。



防犯パトロール時の青色パトカー



2014年6月 美化活動に参加された皆さまと

2014年度CSR活動総括 (KPIによる評価と次年度の

CSR推進 中核領域	中期活動テーマ	ゴール	Plan	活動項目	Check	KPI	(目標値)
CSRマネジメント	ステークホルダー エンゲージメントの 確立	多様なステークホルダーの 意見を収集し、 CSR活動に反映する 仕組みが完成している	●ステークホルダーダイアログを充実する	ステークホルダー ダイアログの 継続的实施	100%		
			●情報開示を充実する	社外アンケートに おけるCSR情報の 充実度アップ (対前年)	100%		
			●社員へのCSR推進概念の浸透を図る	社内アンケートに おける理解度アップ (対前年)	100%		
	リスクマネジメント システムの 確実な運用	CSR委員会を中心に 各PDCAサイクル※1による リスクマネジメント システムが 確実に運営され、 全CSR活動が 推進されている	●コンプライアンスに関するPDCAサイクルを 確実に運用する ●安全衛生に関するPDCAサイクルを確実に運用する ●防火防災に関するPDCAサイクルを確実に運用する ●環境保全に関するPDCAサイクルを確実に運用する	CSR委員会開催 (CSR関連5委員会)	年2回		
			●サプライチェーンにおける デューディリジェンス※2を推進する	デューディリジェンス 実施までの進捗度 (対計画)	100%		
	P7~13	優れた製品の 開発と提供	医療ニーズに対応する 製品を開発し、 安定供給している	●優れた製品を研究・開発する	製品開発進捗※3	100%	
●製品を安定的に供給する	受注充足率			100%			
●製品の信頼性を確保する	製品回収件数			0件			
製品・疾患に関する 情報・サービスの提供	目に関する 最新の情報を提供し、 早期発見、適正治療に 貢献している			●患者さんや一般生活者に 有用な情報を提供する	情報提供の 継続的实施	100%	
		●医療関係者に有用な情報を提供する	情報提供の 継続的实施	100%			
P14~18	医療関係者・ 患者団体との コンプライアンス確保	医療関係者・患者団体との コンプライアンス逸脱事象が 発生していない	●コンプライアンス確保のための 仕組みを整備・運用する	問題事象発生件数	0件		

※1：PDCAサイクル＝事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す
 ※2：デューディリジェンス＝CSR(企業の社会的責任)におけるデューディリジェンスとは、組織の決定と活動に関する実際のおよび潜在的な社会に与えるマイナスの影響を特定するプロセス
 ※3：進捗＝製品開発が次の段階に進むこと ※4：MR＝Medical Representativeの略、医薬情報担当者

KPI)

CSR推進中核領域
(詳細P6)



※実践活動(Do)項目は、実践報告ページ(P7~18)に掲載しています。また、活動内容の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

(実績値)	自己評価	Action	次年度のKPI
100%	当社のCSR活動に対する期待や要望を伺うために、「有識者」「社員」「医療関係者」に続いて、「視覚障がい者支援団体の方」とのダイアログを実施した。 今後も多様なステークホルダーとのダイアログを実施し、CSR活動を充実する。	ステークホルダーダイアログの継続的实施	100%
100%	「充実している」との回答が92%と高水準を維持、うち、「大変充実している」との回答は前年比2ポイント上昇した。KPIを設定するなどの改善に対しても「評価できる」との回答が92%と高かった。 今後も高水準な充実度を維持しながら、アンケートの回答者数を増やす取り組みにシフトする。	社外アンケートにおける回答者数アップ(対前年)	20%増
100%	「理解できた」との回答が99%と高水準を維持、うち、「十分理解できた」との回答は前年比4ポイント上昇した。 今後も高水準な理解度を維持するため、入社時や管理職登用時にCSR推進概念の研修を継続して実施する。	入社時・管理職登用時の研修実施	100%
2回開催	CSR委員会を構成するCSR関連5委員会をそれぞれ年2回開催し、PDCAサイクルを確実に運用した。 今後もCSR活動を推進するため、CSR関連5委員会を定期的に開催する。	CSR委員会開催(CSR関連5委員会)	年2回
100%	製造委託会社4社に対し、法令遵守体制、環境保全、安全衛生に関するデューデリジエンスを実施した。 今後もデューデリジエンスの対象先を拡大し、継続的に実施する。	デューデリジエンス実施(対計画)	100%
100%	国内で2品目の新製品を発売し1品目の適応追加承認を取得、欧州では1品目の販売承認を取得し、1品目の承認申請が受理され、製品を進階させた。 今後も製品の開発を進階させる。	製品開発進階	100%
99.8%	医療用は受注充足率100%であったが、一般用は予想外の需要増に伴い1品目が一時的に充足できなかった。 今後も供給体制を継続的に強化し、製品を安定的に供給する。	安定供給の継続的实施	100%
0件	グローバル品質目標を設定し改善に取り組み、製品の品質を確保した。 今後もグローバル品質目標に対応した製品の信頼性を確保する。	製品回収件数	0件
100%	目の病気の予防や早期発見に関する情報を、当社ウェブサイトや小冊子などにより提供した。 今後も目の病気の予防や早期発見に関する情報を継続的に提供する。	情報提供の継続的实施	100%
100%	製品・疾患に関する情報提供を充実し、MR ^{※4} 活動、講演会、医療関係者向けウェブサイトなどにより提供した。 今後も適正治療などに有用な情報を継続的に提供する。	情報提供の継続的实施	100%
0件	情報提供などの活動にかかわる業界自主基準、自社ルールの教育を実施し、コンプライアンスを確保した。 今後も社内教育や仕組みの運用により、適正な活動とコンプライアンスを確保する。	問題事象発生件数	0件

2014年度CSR活動総括 (KPIによる評価と次年度のKPI)

CSR推進 中核領域	中期活動テーマ	ゴール	Plan	活動項目	Check	KPI	(目標値)
公正な事業取引 P19~20	事業取引における コンプライアンス 確保	取引先との 事業活動において コンプライアンス逸脱事象が 発生していない	●コンプライアンス意識を醸成する		社員研修実施率	100%	
			●コンプライアンス確保のための仕組みを 整備・運用する		問題事象発生件数	0件	
尊重 P19~20	事業活動における 人権尊重	事業活動全般において 人権が尊重され差別のない 社会の実現に貢献している	●人権尊重意識を醸成する		問題事象発生件数	0件	
労働・安全衛生 P21~24	働きがいのある 職場環境づくり	年齢、性別、国籍、 雇用形態の違い、障がいの 有無などにかかわらず、 社員が成長する機会が 公平に与えられ、 働きがいのある職場が 形成されている	●ダイバーシティ(多様性)を推進する		計画の進捗度	100%	
			●人材の育成を推進する		社員研修実施率	100%	
	安全衛生の確保	社員の健康と安全を 最優先した 働きやすい職場環境を 実現している	●社員の安全を確保する		業務災害件数 (無責事故※5除く)	0件	
			●社員の衛生を確保する		健康診断受診率	100%	
環境保全 P25~28	地球温暖化対策	事業活動と両立する 地球温暖化対策により、 環境負荷低減に 貢献している	●CO ₂ 削減に向けた取り組みを推進する		CO ₂ 排出量	26,795 t-CO ₂ 以下	
	排出・廃棄対策	化学物質の 適正管理の維持、および 廃棄物削減により 環境負荷低減に 貢献している	●ゼロエミッション活動を推進する		廃棄物最終処分率	0.78% 以下	
			●環境汚染を予防する		法令遵守率	100%	
環境保護	生物多様性の維持に 貢献している	●環境保護活動を実施する		新規活動件数	1件以上		
社会貢献 P29~30	事業分野における 医療の発展と 福祉の充実	眼科領域における 医療の発展と福祉の充実に 貢献している	●患者さんや支援団体などへの 貢献活動を充実する		新規活動件数	1件以上	
			●医療関係者への貢献活動を実施する		助成などの 継続実施	100%	
	企業市民としての 活動	地域コミュニティとの コミュニケーションと 連携により、 信頼関係が構築されている	●社会貢献活動を実施する		新規活動件数	1件以上	

※5：無責事故＝本人に過失のない労働災害



※実践活動(Do)項目は、実践報告ページ(P19~30)に掲載しています。また、活動内容の詳細は当社ウェブサイトに掲載しています。

(実績値)	自己評価	Action	次年度のKPI
100%	入社時および管理職登用時の研修や部門ごとの業務内容に応じた教育・研修を実施した。 今後もコンプライアンス意識を高めるため、社員研修を継続的に実施する。	社員研修実施率	100%
0件	社内規程の整備や監査などのモニタリングの実施など、仕組みの整備・運用により、コンプライアンスを確保した。 今後も継続的な仕組みの整備・運用により、コンプライアンスを確保する。	問題事象発生件数	0件
0件	全社員への研修や啓発活動の実施により、人権に関する問題事象は発生しなかった。 今後も人権尊重意識を高めるため、研修と啓発活動を継続的に実施する。	問題事象発生件数	0件
100%	労使が協働してワークライフバランスに関する各種制度活用を推進したことにより、社員の平均勤続年数の増加ならびに女性管理職の比率が向上した。 今後は「障害者雇用促進法」改正に適応した障がい者雇用率遵守をめざす。	障がい者雇用率	2.1%以上
100%	基本理念に基づく求められる人材像を定義、それと連動した新人事制度を導入・展開し、必要に応じた研修を実施した。 今後は求められる人材像に沿った階層別研修と評価者研修を着実に実施する。	研修実施率	100%
10件	安全衛生マネジメントシステムを運用し、社員の安全衛生の確保に取り組んだが、業務災害が10件発生した。休業を伴う重大な労働災害は発生しなかった。 今後も安全衛生マネジメントシステムを運用し、業務災害0件をめざす。	無責事故を除く休業を伴う災害	0件
100%	全社員が定期健康診断、生活習慣病検診を受診した。 今後は定期健康診断に加え、目の健康増進のために眼科検診を実施する。	眼科検診受診率	100%
27,237 t-CO ₂	事業場ごとに省エネルギー推進に取り組んだが、休止していた工場の一時的再稼働により、CO ₂ 排出量は6.8%増加した。 今後も事業場ごとに省エネルギー推進に取り組み、CO ₂ 排出量を削減する。	CO ₂ 排出量	24,311 t-CO ₂ 以下
0.50%	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、鉄くず、ガラスくずのリサイクル化を実現したことによって、最終処分率0.5%と目標を上回った。 今後もさらなる3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、廃棄物最終処分率を削減する。	廃棄物最終処分率	0.07%以下
100%	法令や条例の規制に基づいて化学物質を適正に管理し、排気・排水・騒音・振動などの基準を遵守した。 今後も新たな法令などにも適正に対応し、継続して法令等を遵守する。	法令遵守率	100%
1件	新たに高島森林体験学校主催の「びわ湖水源の森」整備へ参加した。 今後も環境保護のための活動を充実させる。	貢献活動の継続実施	100%
2件	患者会や視覚障がい者団体、盲導犬育成事業への支援を継続し、新たに「視覚障害リハビリテーション研究発表大会」への参加と、視覚障がいや盲導犬について知っていただくためのイベントを開催した。 今後も患者さんや支援団体などへの貢献活動を充実させる。	貢献活動の継続実施	100%
100%	研究活動および研究者育成に対する支援や角膜移植の普及、失明予防活動、眼科医育成プログラムなどに対する支援を実施した。 今後も医療の発展のための助成などを継続的に実施する。	助成などの継続実施	100%
2件	事業場立地地域と連携した防災・防犯・交通安全推進活動への支援や被災地域を援助する活動に対する寄付を行った。 今後も企業市民として地域コミュニティと連携した貢献活動を継続的に実施する。	貢献活動の継続実施	100%

第三者意見

CSRに各企業が取り組み始めてから、10年ほどが経ちました。いくつかのグローバルなCSRに関するガイドラインの策定を受けて、多くの企業の取り組みがレベルアップし平準化してきました。反面、それぞれの企業のCSR活動の基調が同じようなものになり、いわば顔が見えにくい状況になりました。

「参天製薬CSRレポート2015」からは、グローバルなガイドラインとの整合性を保ちつつ、自社の存在意義に根差したCSR活動の基軸を確立し、その基軸のもと経営者も社員も等身大の活動を誠実に展開している企業の姿が見事に浮かび上がってきます。

トップメッセージにおいて、「眼科領域のスペシャリティ・カンパニー」として、「経営と一体となったCSR（社会的責任）に積極的に取り組む」ことが明快地謳われています。これを受け、洋の東西を問わず、CSRを自覚し日々の活動を充実させている社員の存在をレポートの随所に見ることができます。たとえば、患者数が世界的に少ないことから治療薬の開発が進んでいない希少疾病用医薬品の開発に関する〈活動現場の声 Voice2〉「新薬の早期開発（サンテン・インクDE-109開発プロジェクトチーム）」で紹介されている社員たちです。また、世界最大級の点眼剤生産工場である能登工場における徹底した環境保全の取り組みに関する〈Voice4〉では、「何よりも自分が納得できる言葉に練り上げ伝えることで、現場の一人ひとりが共感できる環境保全活動へ」との担当者の思いが紹介されています。至言といえましょう。

さらに、同社のCSR活動の大きな特長は、社外アンケートや社内アンケートの結果をKPI（重要業績評価指標）とし

立命館大学大学院
経営管理研究科 客員教授
社会と企業研究所 所長
一般社団法人経営倫理実践研究センター
上席研究員

池田 耕一氏

1971年、京都大学法学部卒業。同年、松下電器産業入社。本社・関係会社・事業部で人事業務を担当。その後、初代企業倫理室長として、コンプライアンス・CSRに一貫して取り組む。また、初代リスクマネジメント室長を兼務しつつ、リスクマネジメント・危機管理・内部統制を研究・実践。2007年3月、同社退職。立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授を経て、2015年4月より現職。



て活用するなど、ステークホルダーの声を確認して新たな気づきと改善を図っていることです。これは、〈Voice1〉で紹介されている視覚障がい者支援団体の方とのダイアログ「眼科領域における貢献を通じた参天製薬の社会的使命の再認識」からも鮮やかに伝わってきます。7つの「CSR推進中核領域」ごとに扉ページで主な実践活動を簡潔にまとめていること、また、KPIによる率直な評価などを含む一覧形式の〈2014年度CSR活動総括〉などに、ステークホルダーへ自社の実態をより分かりやすく伝えたいとの真摯な意思ときめ細かな努力を感じます。

欧州・アジアにおいて新たに40以上の国と地域に事業展開したことによる人材の多様化が急速に進む中、「基本理念」に基づいた「経営と一体のCSR」をさらに浸透させ、CSR活動をグローバルにスパイラルアップされていくことを心から期待しています。

第三者意見を受けて

「CSRレポート2015」に対する第三者意見として、池田様にはお忙しい中、本レポートをご精読いただき、貴重なご意見をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

当社は、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現をめざしています。この実現のためには、経営と一体となったCSRが不可欠であり、ISO26000を参考にCSR推進概念として定義し、KPI（達成指標）に基づいたPDCAサイクルを回すことにより、CSR活動の充実化を図ってまいりました。今年度は、ステークホルダーの皆さまにより一層ご理解いただくために、KPIによる評価と次年度の方針を含む「2014年度CSR活動総括」を一覧形式で掲載し、さらに、社員の活動を直接お伝えできる「活動現場の声 Voice」の掲載もスタートさせました。

今後は、世界中の社員へのCSR推進概念の浸透を継続して行うことにより、「経営と一体のCSR」を着実に発展させ、持続的な社会ならびに環境への貢献を果たしてまいります。



CSR・業務本部
理事 CSR統括部長

川畑 裕一

会社概要 (2015年3月31日現在)

社名：参天製薬株式会社
 本社：〒530-8552 大阪市北区大深町4番20号
 グランフロント大阪 タワーA
 創業：1890年
 資本金：7,383百万円
 従業員数：3,230名(単体:1,899名)

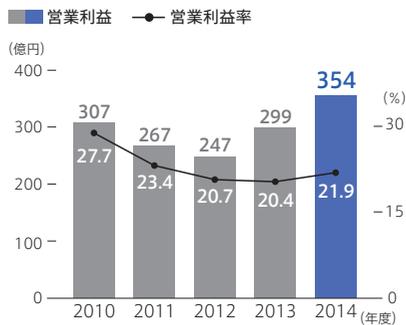
〈事業概要〉

参天製薬グループは、「目」をはじめとする特定の専門分野を中心として、日本、アジア、欧州などでグローバルに事業を展開しています。医療現場における各地域の特性を十分に考慮し、医師・薬剤師とともに、患者さんの治療に貢献できる製品を提供し続けることが、私たちの使命と考えています。

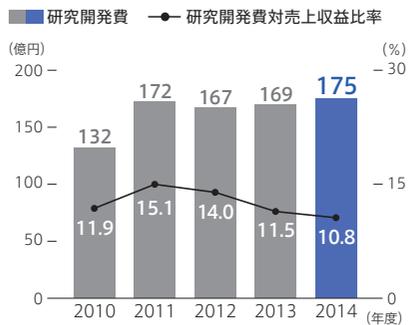
売上収益および海外売上収益比率



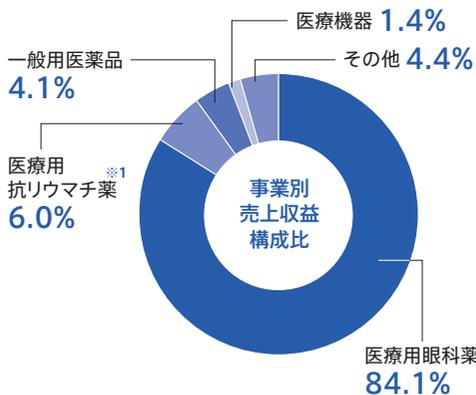
営業利益および営業利益率



研究開発費および研究開発費対売上収益比率



(注) 参天製薬グループでは、2014年度から国際会計基準 (IFRS) を適用しています。2013年度の諸数値はIFRSに組み替えて、2012年度以前の数値は日本基準に基づき算出しています。



医療用眼科薬

「ジクアス」 「タブロス」 「アレジオン」

国内市場シェア **40.1%** **1位**^{※2}

一般用医薬品

「サンテFXネオ」

国内市場シェア **20.1%** **2位**^{※3}

※1：2015年8月、抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬株式会社(旧商号：ヒュベリオンファーマ株式会社)へ承継しました。
 ※2：2014年度の市場シェアおよび国内地位(出典：IMS-JPMデータに基づく参天製薬分析)
 ※3：2014年度の国内一般用点眼薬市場でのシェアおよび市場地位(出典：参天製薬集計資料)
 ©2015 IMS-Health IMS-JPM2014.4-2015.3をもとに参天製薬分析 無断転載禁止

参天製薬の歴史

Chapter1 「大学目薬」の誕生

参天製薬の創業は今から120年以上前にさかのぼります。現在、医療用眼科薬(目薬)の売上高が全体の8割以上を占め、国内トップ、世界有数の眼科薬メーカーとなった参天製薬ですが、その始まりは意外にも目薬ではありませんでした。そして、創業から9年後、初期の成長を支えたヒット商品、「大学目薬」を発売。初代製品の発売から100年以上が経過した現在でも、日本でいちばんのロングセラー目薬としてそのブランドが引き継がれています。

1899(明治32)年「大学目薬」を発売

明治初期、来日した外国人医師は一般に日本人に眼病が多いのに驚いたといわれています。それほどまでに当時、日本には目薬に対する大きな需要があったのです。そこに登場したのが、「大学目薬」。「世の進むに従い、目薬にもこんな立派なものができました」という自信に満ちあふれた宣伝コピーと、権威ある大学教授をイメージさせる、ひげとメガネの博士の商標で、たちまち日本全国に広まりました。



Chapter2 目薬に特化

第二次世界大戦の戦災により本社および大阪市内3工場を焼失し、苦難の時代を迎えます。この苦境を乗り切ったのは、いち早く目薬事業への特化を打ち出し経営資源の集中を行った決断力と先見性でした。

1952(昭和27)年目薬中心の事業戦略で会社再建を図る

1952(昭和27)年「大学ベニシリン目薬」、1953(昭和28)年「大学マシリン目薬」、1954(昭和29)年「大学スーパー目薬」を発売。



Chapter3 医療用が中心に

医療用医薬品の「チモプトル」「タリビッド」「リマチル」などの新薬が相次ぎ、急成長期を迎えます。それに合わせて事業も拡大し、大阪に中央研究所、石川県に能登工場を開設、さらに全国各地に営業所を新設するなど、国内拠点の拡充を進めました。

Chapter4 新たな成長ステージへ

国内の医療用眼科薬事業で築いた基盤をもとに、海外事業展開を積極化。1993(平成5)年米国、1994(平成6)年ドイツ、1997(平成9)年フィンランドに拠点を設立したのをはじめ、現在、海外19カ国に23拠点を構え、臨床開発・製造・販売を行っています。



連絡先

CSR・業務本部 CSR統括部

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号

TEL.06-6321-7011 FAX.06-6321-7196

<http://www.santen.co.jp>

下記の販売名は、提供会社の登録商標です。
「アイリーア」(バイエル アクチエンゲゼルシャフト)
「アレジオン」(ペーリンガーインゲルハイム)

2015年9月発行